－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門A						
担当教員	木本　雅子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。
授業の概要	・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典,音楽史、ソルフェージュについて講義と実技を交えながら進めていく。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。
到達目標	音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 音楽と他の分野の芸術との関係性を知る。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲の素晴らしさやアンサンブルの楽しさに気づく。
授業計画	第１回　ガイダンス　　呼吸法について 第２回　呼吸法及び発声法について演習１基礎 第３回　呼吸法及び発声法について演習２発展 ソルフェージュ課題演習１　２度音程　　楽典１　音名と譜表 第４回　ソルフェージュ課題演習２　３度音程　　楽典２　リズムと拍子 第５回　ソルフェージュ課題演習３　リズムについて　楽典３　音程 第６回　ソルフェージュ課題演習４　４度音程　　楽典４　音階と調 第７回　ソルフェージュ課題演習５　拍子について　楽典５　和音 第８回　ソルフェージュ課題演習６　５度音程　　楽典６　まとめと試験 第９回　ソルフェージュ課題演習７　６度音程 音楽史（ヨーロッパ音楽の流れ）　古代・中世の音楽①グレゴリオ聖歌　モノフォニー 第１０回ソルフェージュ課題演習８　転回音程　古代・中世の音楽②中世の音楽観 第１１回ソルフェージュ課題演習９　様々な調　ルネサンスの音楽①ポリフォニー 第１２回ソルフェージュ課題演習１０転調　ルネサンスの音楽②楽譜の発展 第１３回ソルフェージュ課題演習１１様々なクレフ　ルネサンスの音楽③ミサ曲の発展 第１４回ソルフェージュ課題演習１２総合　ルネサンスの音楽④宗教改革と音楽 第１５回まとめと期末試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った内容の復習と次回の授業に向けて指定した課題曲等の予習
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、授業への積極性など)と中間(楽典の試験)・期末試験によって評価する.(平常点５０%、試験５０%の予定) 実技を伴う授業であるので、欠席は練習回数の減数となる。故に遅刻と欠席は減点対象となる。
教科書	『はじめての音楽史 増補改訂版ー古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者　久保田慶一、ほか　　音楽之友社 ISBN978-4-2761-1016-8 上記の他、資料、楽譜を配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門B						
担当教員	木本　雅子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。
授業の概要	・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典,音楽史、ソルフェージュについて講義と実技を交えながら進めていく。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。
到達目標	音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 音楽と他の分野の芸術との関係性を知る。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲の素晴らしさやアンサンブルの楽しさに気づく。
授業計画	第１回　バロック音楽①　　モノディー 第２回　バロック音楽②　　バッハ 第３回　バロック音楽③　　ヘンデル 第４回　古典派の音楽①　　ホモフォニー 第５回　古典派の音楽②　　モーツァルト 第６回　古典派の音楽③　　ベートーベン 第７回　ロマン派の音楽①　フランス革命と音楽 第８回　ロマン派の音楽②　ドイツリート 第９回　ロマン派の音楽③　イタリアオペラ 第１０回　近代の音楽　　絵画と音楽 第１１回　現代の音楽 第１２回　日本における西洋音楽の流れ①　滝廉太郎　山田耕作 第１３回　日本における西洋音楽の流れ②　中田喜直　團伊久磨 第１４回　日本における西洋音楽の流れ③　三善晃　武満徹　その他の作曲家 第１５回　まとめと期末試験 ※以上は計画ですので変更となる場合もあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った内容の復習と次回の授業に向けて指定した課題曲の予習
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、授業への積極性など)と期末試験によって評価する。(平常点５０%、試験５０%の予定) 試験は期末試験が主ですが、それ以外にもレポートを課す予定。 実技を伴う授業であるので、欠席は練習回数の減数となる。故に遅刻と欠席は減点対象となる。
教科書	『はじめての音楽史ー古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者　久保田慶一、ほか　　音楽之友社 ISBN4-276-11010-6 c1073 上記の他、資料、楽譜を配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎演習／文章表現A						
担当教員	西川　純司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける
授業の概要	大学での学習に必要な基礎的な技能や能力を身につけることを目指す。情報の収集・整理から文章表現、口頭発表に至るまでを実践的に学ぶ。
到達目標	文章表現や口頭発表を実際に試み、表現することの楽しみを味わいながら、基礎的な表現法を身につける。
授業計画	１　オリエンテーションとキャンパス探索 ２　大学での学び方 ３　松蔭manabaの使い方 ４　情報収集の基礎①：図書館オリエンテーション ５　情報収集の基礎②：文献・資料の探し方 ６　情報収集の基礎③：本の読み方 ７　情報を整理する ８　文章表現の基礎①：文末の統一 ９　文章表現の基礎②：話し言葉と書き言葉 １０　レポートの作成①：準備 １１　レポートの作成②：作成 １２　レポートの作成③：完成 １３　プレゼンテーションの実践①：準備（１） １４　プレゼンテーションの実践②：準備（２） １５　プレゼンテーションの実践③：発表
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解か深まります。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	レポート（２０％）、プレゼンテーション（２０％）、平常点（６０％）
教科書	必要に応じて資料やプリントを配布する。
参考書	佐藤望編、『アカデミック・スキルズ　第2版』、慶應義塾大学出版会株式会社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎演習／文章表現A						
担当教員	枡井　智英						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける
授業の概要	大学での学習に必要な基礎的技能や能力を身につけることを目指す。情報の収集・整理から文章表現、口頭発表に至るまでを実践的に学ぶ。
到達目標	文章表現や口頭発表を実際に試み、表現することの楽しみを味わいながら、基礎的な表現法を身につける。
授業計画	１．オリエンテーションとキャンパス探索 ２．大学での学び方 ３．松蔭manabaの使い方 ４．情報収集の基礎①:図書館オリエンテーション ５．情報収集の基礎②：文献・資料の探し方 ６．情報収集の基礎③:本の読み方 ７．情報を整理する ８．文章表現の基礎①:文末の統一 ９．文章表現の基礎②:話し言葉と書き言葉 １０．レポートの作成①:準備 １１．レポートの作成②:作成 １２．レポートの作成③：完成 １３．プレゼンテーションの実践①:準備（１） １４・プレゼンテーションの実践②:準備（２） １５．プレゼンテーションの実践③:発表
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	レポート（２０％）、プレゼンテーション（２０％）、平常点（６０％）
教科書	必要に応じて資料やプリントを配布する。
参考書	佐藤望編、『アカデミック・スキルズ　第2版』、慶應義塾大学出版会株式会社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	山田　道夫						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む
授業の概要	紀元前８世紀に成ったとされ、西洋文学史のＡでありＺである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。
到達目標	１　常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。 ２　読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。
授業計画	第１回　『オデュッセイア』概説(1)―神話的背景、映画ビデオ 第２回　『オデュッセイア』概説(2)―文学史的背景、映画ビデオ 第３回　第九歌「キュクロプスの話」 第４回　第十歌「魔女キルケーの話」 第５回　第一歌「神々の会議」 第６回　第二歌「テレマコスの旅立ち」 第７回　第五歌「魔女カリュプソの島」 第８回　第六歌「少女ナウシカー」 第９回　第七・八歌「パイエケス人の王宮」 第10回　第十一歌「冥府行」 第11回　第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュブディス」 第12回　レポートの課題と書き方 第13回　オデュッセウスと女たち 第14回　冒険ヒーローとしてのオデュッセウス 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテクストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テクストを一緒に読んでゆく（声に出して輪読する）。漢字の読み取りテストも行う。
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点４０％、期末レポート６０％で評価する。
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321025-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	山田　道夫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む
授業の概要	紀元前８世紀に成ったとされ、西洋文学史のＡでありＺである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。
到達目標	１　常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。 ２　読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。
授業計画	第１回　第十三歌「イタケへの帰還」 第２回　第十四歌「豚飼エウマイオス」 第３回　第十五歌「テレマコスの帰還」 第４回　第十六歌「父子の再会、討伐計画」 第５回　第十七歌「父子の帰館と求婚者たち」 第６回　第十八歌「乞食のオデュッセウス」 第７回　第十九歌「ペネロペイアとの対話」 第８回　第二十歌「討伐前夜」 第９回　第二十一・二歌「弓競技と求婚者誅殺」 第10回　求婚者たちの罪とゼウスの正義 第11回　第二十三歌「夫婦の再会」 第12回　認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方 第13回　映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』 第14回　映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテクストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テクストを一緒に読んでゆく。漢字の読み取りテストも行う。
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点４０％、期末レポート６０％で評価する。
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店　ISBN4-00-321025-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学A						
担当教員	長谷川　眞						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業のテーマ	日本考古学を学ぶ～考古学による原始日本列島史～
授業の概要	物質文化を対象とする考古学的方法（編年論・形式論。分布論）を学びます。最近の考古学研究により解明された日本列島の原始社会の歴史を、各時代の主要テーマに即し、旧石器時代から弥生時代までたどります。講義と演習と現地研修により、遺跡と遺物の実際に触れながら、日本考古学を学びます。
到達目標	歴史研究の方法論に一つ、考古学的方法を学びます。人間活動が展開された場所（遺跡）の地形、地理的要因を理解し、人と土地との相関関係を環境要因も加えて分析し、歴史を考える視点を養い、また、地図から地形を読み解き、資料の観察力を高め、ものから技術の進歩と精神性、人間の交流を学びます。考古資料を通して社会の歴史的変化を理解することも学び、学芸員としての思考法を身につけることを目指します。
授業計画	第1回　考古学とは何か～考古学入門～ 第2回　考古遺物で語る日本史 第3回　考古学の方法 第4回　自然科学と考古学 第5回　旧石器時代の生活～人類の誕生と自然環境～ 第6回　縄文時代の住居と集落 第7回　縄文人の生活～自然環境と生業～ 第8回　考古資料の展示法～博物館施設実習～ 第9回　縄文人と弥生人 第10回　弥生時代の生産と生活 第11回　青銅器と祭祀 第12回　弥生時代の戦争と魏志倭人伝 第13回　弥生時代集落遺跡現地実習 第14回　発掘調査の歴史と実際～考古学と埋蔵文化財行政～ 第15回　総括　原始社会の日本を振り返って～縄文と弥生の文化比較～
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。
授業方法	講義及び演習と現地見学
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%
教科書	プリント配布
参考書	『日本の考古　ガイドブック』、改訂版、東京国立博物館、東京国立博物館、2004年 『考古学と歴史』、第１版、白石太一郎、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-23768-3 『考古学—その方法と現状—』、第１版、泉拓良・上原真人、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-30913-7

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学B						
担当教員	長谷川　眞						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業のテーマ	日本考古学を学ぶ～考古学による日本列島史・古代から近代まで～
授業の概要	日本考古学各論のうち、主に古墳時代以降の歴史時代の考古学を学びます。最近の考古学研究により解明された日本列島の歴史を、各時代の主要テーマに即し、また、神戸が日本全体の歴史に関与した地域史的なテーマも取り上げます。講義と現地研修と演習により、遺跡と遺物の実際に触れながら日本考古学を学びます。
到達目標	歴史研究の方法論に一つ、考古学的方法を学びます。遺跡、遺物の物質文化から各時代の人間活動と人間の技術、思考法を探る考古学的方法を学びます。型式分類が編年や文化論に有効な考古学的方法であることを理解し、考古資料を用いて日本歴史を構成する方法についても学び、学芸員として必要な知識や思考法を身につけることを目指します。
授業計画	第1回　考古学とその方法 第2回　考古遺物でたどる日本史 第3回　原始時代の暮らしとまつり～旧石器・縄文・弥生時代～ 第4回　古墳時代の始まり～ヤマト政権の成立～ 第5回　古墳現地実習 第6回　倭の五王と巨大古墳 第7回　地方豪族の台頭 第8回　古墳時代の社会と文化 第9回　律令国家の成立～飛鳥時代から平安時代～ 第10回　古代集落と人々の暮らし 第11回　考古資料の展示法～博物館施設実習～ 第12回　福原京と大輪田泊 第13回　中世の社会～武家文化の台頭～ 第14回　近世兵庫津から近代神戸へ 第15回　総括　考古学からみる歴史像
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。
授業方法	講義及び演習と現地見学
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%
教科書	プリント配布
参考書	『日本の考古　ガイドブック』、改訂版、東京国立博物館、東京国立博物館、2004年 『考古学と歴史』、第１版、白石太一郎、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-23768-3 『考古学—その方法と現状—』、第１版、泉拓良・上原真人、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-30913-7

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷　悦子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えられるようになること。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立つでしょう。
授業計画	＜前期＞ １．ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 ２．広告とコミュニケーション　　※広告って、なあに？ ３．広告と産業、広告ビジネスの概要　※広告マンって、どんな人？ ４．メディアと広告表現①（新聞・雑誌）　※話題の広告を見てみよう。 ５．メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ）※話題の広告を見てみよう。 ６．メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア）※話題の広告を見てみよう。 ７．メディアと広告表現④（インタラクティブメディア）※話題の広告を見てみよう。 ８．広告計画からクリエイティブワークまで　※あの広告は、どうやってできた？ ９．ブランディングとは。　　※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。　　※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法　　※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法　　※どう売り込むか？ 13.　クリエイターの現場①新聞広告、パスター—は、どうやってできる？ 14. クリエイターの現場②　　※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理　　※広告に著作権ってあるの？ ＜後期＞ 1. コピーライティングとは。　※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。　　※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現　　※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現　　※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現　　※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。（ゲストスピーカーによる講義）　※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略　　※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン　※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。　　※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル　　※いろんな表現方法を考えよう。 11.　広告プランニング演習（新聞広告）※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12.　広告プランニング演習（TVCF）※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習①　　※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習②　　※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション　　※自作の広告をプレゼンテーションしよう。
授業外における学習（準備学習の内容）	ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力、出席率などを考慮し、総合的に評価します。

教科書	なし
参考書	小松洋支、中村卓司　監修　『新コピーライター入門』　（株）電通 藤沢武夫　『広告の学び方つくり方』　昭和堂 岸　勇希　『コミュニケーションデザインーコミュニケーションをデザインする』（株）電通

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IA（ギリシアの神話と文学）						
担当教員	山田　道夫						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成（叙事詩、叙情詩、悲劇、喜劇、歴史叙述、哲学、弁論、彫刻、建築等々）は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその模範としての意義を失ってはいない。そして彼らの文学も哲学も歴史も美術も、諸民族の神話と比較して格段に豊かで洗練された彼らの神話のインスピレーションから生まれてきた。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力について学んでゆく。
到達目標	①古代ギリシアの神話と文学について基礎的な知識をもつ。 ②神話と神話の文学を学び楽しむための語彙力・読解力を身につける。
授業計画	第１回　神話(mythos, myth, mythology)とは何か？　ギリシア神話の原典は？ 第２回　ギリシア神話の構造―宇宙の生成、神々、英雄、人間 第３回　ギリシア文学の時代区分、古典期アテナイ―ギリシア文化の黄金期 第４回　王位簒奪神話とオリンポスの神々 第５回　トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)―『イリアス』 第６回　トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)―『オデュッセイア』、小テスト① 第７回　プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第８回　アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第９回　ギリシア神話の英雄たち―ヘラクレス、不条理を生きる 第10回　ギリシア神話の英雄たち―ペルセウス他、小テスト② 第11回　ギリシア神話と日本の神話 第12回　ギリシア悲劇の最高傑作―ソポクレスの『オイディプス王』 第13回　女の叫び―エウリピデスの『メデイア』 第14回　貞淑で賢い女の楽しい話―エウリピデスの『ヘレネー』 第15回　まとめと展望、期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。
評価基準と評価方法	授業への参加度３０％、小テスト２回３０％、期末テスト４０％で評価する。
教科書	『ギリシア神話―神々と英雄に出会う』 西村賀子著 中公新書　ISBN4-12-101798-6
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IB（ギリシア語）						
担当教員	山田　道夫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業のテーマ	ギリシア語初歩
授業の概要	ただ単に「ギリシア語を学ぶ」といえば、それは現在のギリシャで話されている「現代ギリシャ語」ではなくて、古代のギリシア語のことである。ふつうこのギリシア語を学ぶのは西洋文化の源泉となった文学・歴史・哲学の古典、さらには新訳聖書などを原語で読んだり、研究したりするためだが、この授業では、受講生がギリシア語とはどんな言語かを知り、西洋古典文化や、英語やドイツ語など印欧語系の言語そのものへの興味関心を高めることを目的として、ごく簡単な文法を学び、簡単な文章を訳読する。
到達目標	ギリシア文字を発音し、名詞と動詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なギリシア語の文章を理解できるようになること。
授業計画	第１回：古典ギリシア語について、ギリシア語のアルファベット、音韻の分類 第２回：発音（二重母音、注意すべき子音、気息記号） 第３回：発音（音節とアクセント） 第４回：動詞の変化(1)—直説法能動相現在人称変化 第５回：第一変化名詞(1) 第６回：動詞の変化(2)— 直説法能動相未来人称変化 第７回：第一変化名詞(2) 第８回：動詞の変化(3)—直説法能動相未完了過去人称変化 第９回：第二変化名詞 第10回：第一第二変化形容詞 第11回：前置詞 第12回：動詞の変化(4)—直説法能動相アオリスト人称変化 第13回：簡単なギリシア語の文章を読む:現在時称 第14回：簡単なギリシア語の文章を読む：未完了時称と未来時称 第15回：簡単なギリシア語の文章を読む：アオリスト時称
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の復習、宿題の練習問題
授業方法	教科書に沿って文法事項を学び、練習問題を解いてゆく
評価基準と評価方法	授業への参加度や学習態度、課題の達成度、小テストなどを総合した平常点100%で評価する。
教科書	田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』（岩波全書）ISBN4-00-020125-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IA						
担当教員	多賀谷　真吾・武田　良材						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	近現代のイギリス・ドイツの文学と文化
授業の概要	担当者：多賀谷　真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。 担当者：武田　良材 テーマ：戦争とドイツ文学 現代のドイツ語圏の文学はナチズムの歴史を抜きにしては理解し難いものです。この講義では第一次世界大戦よりも前の時代から第二次世界大戦後までの長い期間に渡る、戦争とドイツ語文学の関係を紹介し、その中でのナチズムの位置を解説します。文化面でのドイツおよびオーストリアの日本への影響はかねてよりとても大きいもので、これらの国の文芸を知ることは、日本の文芸について知ることにもつながります。そうした観点から、日本人によく知られたドイツ語の文芸作品を紹介します。 受講者には、講義内で紹介するドイツ語圏の文芸作品のいずれかを通読することが求められます。
到達目標	近現代のイギリス・ドイツの文学と文化の理解
授業計画	担当者：多賀谷　真吾 第１回：イントロダクション 第２回：英語の詩ってどんなもの？ 第３回：マザーグースとは？ 第４回：詩人と自然―ワーズワス 第５回：シェイクスピアの言葉の力 第６回：詩と映画の深い関係（１）『いまを生きる』 第７回：詩と映画の深い関係（２）『マディソン郡の橋』 第８回：まとめと結論 担当者：武田　良材 第１回：ノーベルに愛された平和主義者：ベルタ・フォン・ズットナー『武器を捨てよ！』 第２回：悲惨な戦場：エーリヒ・マリア・レマルク：『西部戦線異状なし』 第３回：大英帝国と狭隘な国ドイツ：ハンス・グリム：『土地なき民』 第４回：戦うモラリスト：ハインリヒ・マン『アンリ四世』 第５回：ナチス・ドイツからの亡命：クラウス・マン『メフィスト』 第６回：ナチズム：エドガー・ヒルゼンラート『ナチと理髪師』 第７回：第二次世界大戦後の世界：ベルンハルト・シュリンク『朗読者』
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。
授業方法	２人の講師によるオムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。２人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。
教科書	プリントを配布
参考書	授業中に紹介

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IB						
担当教員	柿沼　伸明・浦部　依子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	近現代のロシアと中国の文学・文化
授業の概要	担当者：柿沼　伸明 テーマ：ロシア文化史 18世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、美術、音楽、バレエ、アニメについて概説する。ロシア文学としては、19世紀の二大文豪であるトルストイとドストエフスキーの生涯と作品をとりあげる。音楽と美術は、世界的によく知られた作曲家や画家の作品を実際に鑑賞してみる。また、ロシアで開発されたピンスクリーンアニメ、切り絵アニメ、油絵アニメの制作方法を説明し、その映像効果を直接、味わってみる。 担当者：浦部　依子 テーマ：中国近現代文学概論 アヘン戦争（1840）を境として、それまでの中国文化の体系は大きく変化し、内外の複雑な政治情況の中で胚胎した新しい文学は、近代中国の文学の方向を確実に形成していった。本講義は、清朝末期から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の情況と。五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の情況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 　本講義で取り扱う中国の新しい文学は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点もある。それは、中国文学はおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 　毎回の講義では各時期の社会背景を概説したのち一、二人の作家を取りあげ、作品解釈やディベートなどを通じて、時代と作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。
到達目標	近現代のロシアと中国の文学・文化の理解
授業計画	担当者：柿沼　伸明 第１回：ロシアのアニメ映画監督の紹介 第２回：ロシア史概観 第３回：１９世紀ロシア文学史（トルストイ解説） 第４回：ロシアにおけるバレエの歴史とチャイコフスキー 第５回：１９世紀ロシア文学史（ドストエフスキー解説） 第６回：１８～２０世紀ロシア美術小史 第７回：ロシアにおけるクラシック音楽小史 担当者：浦部　依子　　＊作家と作品は変更することがある。 第１回：中国文学史における近現代文学の位置と特質 第２回：清代後期の社会背景と文学 （龔自珍「詠史」・梁啓超「太平洋遇雨」/「少年中国説」・女流作家秋瑾「満江紅」） 第３回：中華民国期の社会背景と文学（五四新文化運動とは・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第４回：中華民国期の文学（女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若「漂流三部曲・岐路」） 第５回：（小テスト①実施）中華民国期の文学（茅盾「林商店」・巴金「家」・老舎「駱駝祥子」・女流作家丁玲「霞村にいた時」・毛沢東「文芸講話」とは） 第６回：中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（趙樹里「小二黒結婚」/「李有才板話」） 第７回：新中国文革期の文芸（歴史戯曲　呉晗「海瑞罷官」・文化大革命とは・革命現代京劇） 第８回：（小テスト②実施）近現代文学のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。
授業方法	２人の講師によるオムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。２人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。
教科書	プリントを配布

参考書	授業中に紹介 （以下、浦部依子先生の授業の参考書） ①吉田富夫『中国現代文学史　一九一五 - 四九』（朋友書店、1997） ②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997） 　＊第Ⅱ部「近現代の中国文学」（p.102～） ③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記　他十二篇（吶喊）』（岩波書店、1981） ④山田敬三『魯迅の世界』（大修館書店、1977） ⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選　小説〈1〉～〈3〉』（二玄社、2000～2001） ⑥『中国現代文学選集』20巻（平凡社、1962～1963） ⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985、1996） ⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』（河出文庫、1955）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIA						
担当教員	山本　明美・宮田　玲						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：山本のテーマは、「ヨーロッパの古典文芸」 担当者：宮田のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」
授業の概要	２名の教員によるオムニバス講義である。各担当者の授業の概要は以下の通り。 担当者：山本明美 ヨーロッパの中世から１７世紀末まで、古典文芸の特質を理解するのが目的。ヨーロッパの古典文芸はおおむね古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化という二種類のの糸で編まれた織物である。本講義では、各国各時代の社会状況にもふれながら、以下の各テーマに沿って諸作品の大筋をながめてゆく。 担当者：宮田玲 古代メソポタミア、シリア・パレスティナ、エジプトからは、非常に古い時代の文芸作品が多くもたらされている。また、それらには、旧約聖書の物語との関係もうかがえる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）と古代エジプトから、代表的ないくつかの物語を取り上げる。また当時の文字である楔形文字やヒエログリフのほか、文芸作品のテーマとかかわる美術作品についても紹介する。
到達目標	世界の古典的な作品の紹介と解説を受けて、テクストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。
授業計画	担当者：山本明美 第１回　ヨーロッパの歴史・地域・文化 第２回　地獄から天国へ、詩人と恋人の導き：ダンテ『神曲』 第３回　人々のありのままの姿：ボッカッチョ『デカメロン』 第４回　小テスト/講義 第５回　既婚貴族の女漁り：モリエール『ドン・ジュアン』 第６回　いじめぬかれる妻：ペロー『グリゼリディス』 第７回　ペローの新旧論争について 担当者：宮田玲 第１回　古代メソポタミアの風土と歴史。 第２回　エヌマ・エリシュ—バビロニア創造神話— 第３回　アトラ・ハシス —大洪水物語— 第４回　ギルガメシュ叙事詩 —英雄ギルガメシュの生と死— 第５回　小テスト。ハンムラビ法典 —古代の判決集— 第６回　古代エジプトの風土と歴史。 第７回　古代エジプトの神話。ヒエログリフ（エジプト聖刻文字）と芸術表現。 第８回　アテン賛歌—太陽神信仰—
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書（配布資料）を熟読しておくこと
授業方法	担当者：山本　講義、試験、レポート。学生は講義の解説を聞きながら諸作品の要約・抜粋を読み、試験を受け、レポートを作成する。 担当者：宮田　講義
評価基準と評価方法	担当者：山本　平常点（授業態度、小テスト）５０％、試験５０％を総合評価。 担当者：宮田　試験約６０％、平常点約４０％。
教科書	講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」。
参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIB						
担当教員	浦部　依子・木下　昌巳						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：浦部のテーマは、「中国古典戯曲のヒロインたち」 担当者：木下のテーマは、「古代ギリシアの文芸」
授業の概要	オムニバス形式による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：浦部依子 　中国文学には、各時代が誇る代表的なジャンルがあり、時代が下がるにつれ、これらジャンルの花々が豊かに咲きそろいます。まず漢代の「文」と唐代の「詩」の成就があります。宋代には音楽を伴う歌詞を意識した「詞（ツー）」が栄えます。さらに元の時代の雑劇「曲」は、中国文学史に新風を吹き込みました。続いて明清には「戯曲・小説」の盛行を見ました。さてこの講義で扱う女性や両性（男女）関係に関する文学主題は、特にこれらのうち元明清を代表する、より後発的なジャンルにおいて、ひときわ精彩を放ちました。 　本講義ではまず、中国文学の特質と文学史における戯曲文学の位置を講じたのち、毎回ひとつの名作を紹介し、ヒロインの時代と意識の探討や、映像資料による鑑賞と討論、さらに名場面の文学表現の発表を通して、中国古典戯曲文学におけるヒロインの主体意識を、多面的に考察します。 担当者：木下昌巳 　古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパの文化全体の源泉というべき地位を担い、諸方面にわたって圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、古代ギリシアにおいて書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として読まれ続け、時代時代の精神を吹き込まれながら、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、その代表的傑作ともいうべき、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』とプラトンの対話篇『饗宴』の二つの作品を取り上げ、解説と鑑賞をおこなう。
到達目標	世界の古典的な作品の紹介・解説を受けて、テクストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。
授業計画	担当者：浦部依子　　＊戯曲設定は、変更することがあります。 第1回　a中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 　　b匈奴へ嫁した宮女　　王昭君「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回　メイドがとりもつお嬢様の恋　崔鶯鶯　「西廂記（せいしょうき）」 第3回　糠（ぬか）をたべる嫁　　趙五娘　「琵琶記（びわき）」 第4回　生き返ったお嬢様　　杜麗娘　「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回　名妓が拾ったまことの恋　　王美娘　「占花魁（おいらんを占む）」 第6回　女性主体意識討論、文学の表現 第7回　（レポート提出）文学の表現 担当者：木下昌巳 第1回　ギリシアの文芸概観 第2回　ギリシア悲劇の概観 第3回　ソポクレス『オイディプス王』の上演を鑑賞する（1） 第4回　ソポクレス『オイディプス王』の上演を鑑賞する（2） 第5回　ギリシア悲劇と現代思想―オイディプス・コンプレックスについて 第6回　ギリシアの文芸とギリシア哲学 第7回　プラトン『饗宴』を読む（１）　人はなぜ恋をするのか？ 第8回　プラトン『饗宴』を読む（２）　「プラトニック・ラブ」とは何か？
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料「世界の文芸Ⅱ」を授業前に熟読しておくこと
授業方法	浦部依子：文学講義（映像資料によるレヴューと討論を含む）と演習（グループによる名場面の寸劇発表） 木下昌巳：講義と悲劇上演の鑑賞（ＤＶＤによる）
評価基準と評価方法	担当者：浦部依子　　レポート（このほか小テストを実施することがある）60%、文学の表現と積極的授業参加（討論や発言）40% 担当者：木下昌巳　　レポート70%、平常点30%。
教科書	講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」を使用する。

参考書	担当者：浦部依子 ・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京:岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京:弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都:朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都:世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 章培恒･駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海:復旦大学出版社2007 ISBN：9787309054620（中国語） 浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京:東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904 ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳　『国訳漢文大成』文学部第10巻//b　東京: 國民文庫刊行會, 1921.7 西廂記（せいしょうき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註『国訳漢文大成』文学部第9巻//a 東京：國民文庫刊行會, 1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳　東京：昌平堂1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳　東京: 文教社 1916（大正5年） 4『西廂記』 岡島獻太郎訳 東京: 團々社書店（発売）1894 琵琶記（びわき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』 文学部第9巻//a東京：國民文庫刊行會, 1923 2「國譯琵琶記」鹽谷温訳註　『国訳漢文大成』文学部第35册(第9帙の3) 東京: 國民文庫刊行會, 1923 杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳　『国訳漢文大成』文学部第10巻//b　東京: 國民文庫刊行會, 1921.7 2「還魂記」岩城秀夫訳『戯曲集 下』中国古典文学大系53 東京：平凡社 1971 王美娘 「占花魁（おいらんを占む）」 1「売油郎独占花魁」千田九一・駒田信二訳『今古奇観 上』中国古典文学大系37東京：平凡社1970 担当者：木下昌巳 ソポクレス 著　藤澤令夫訳　『オイディプス王』　（岩波文庫） プラトン著　森進一訳『饗宴』（新潮文庫）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	打田　素之・柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の指導
授業の概要	卒業論文執筆のための基本作業と細かな文章作法を教え、各人が自分の関心テーマに沿って充実した卒業論文を完成させることを助ける。
到達目標	卒業論文の完成
授業計画	第１回：卒業論文提出までの日程・課題の説明する。 第２～６回：卒業論文のテーマの見つけ方、参考文献の探し方、卒業論文の書き方、日本語の文章作法等を指導する。 第７～１５回：受講者各人が卒論原案について口頭発表（１人２回）。お互いに討議し、問題点を指摘し合う。 （第１４回目に、卒論の章構成・各章内容の箇条書き・参考文献リストを提出すること） 第１６～２０回：論理展開の方法、引用と脚注の仕方など卒論の細則について解説する。受講者は、執筆中の章の内容について詳しく口頭発表せねばならない。 （１０月中旬までに、少なくとも完成させた卒論の１章を指導教官に提出すること） ２１回目以降：提出された文章を添削し、論理構成や日本語表現などについて個別に指導する。 （書き終えた章はどんどん指導教官のもとに持ってくること。１人３～４回程度、卒論テクストを校閲する。最終的にＯＫが出されたとき初めて、卒論制作が終了する） １月中旬：卒論を教務課に提出。 （ＯＫの出されていない卒論制作者は、引き続き作業を継続すること。ＯＫの出た卒論も、もう一度精読する）
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論のテーマが定まったならば、関連書籍・論文をどんどん読んでいくこと。
授業方法	初めは講義、原稿をもってきた段階から文章添削と個別指導。
評価基準と評価方法	出席20%、卒業論文の内容80%で評価。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	西川　純司						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	現代メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導をします。
到達目標	自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることを目指します。
授業計画	前期 １　イントロダクション ２〜３　卒業研究の進め方についての説明 ４〜８　論文講読 ９〜１４　卒論テーマの口頭発表 １５　夏休み期間に向けた全体指導 後期 １６〜１７　研究状況の報告 １８〜２６　個別指導による論文作成 ２７〜２８　提出に向けた最終確認 ２９〜３０　卒業論文試問 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性かあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業論文を書き上げるためには、授業外での文献探索、資料収集、文献精読が必須です。
授業方法	演習および個別指導
評価基準と評価方法	卒業論文の内容80%、平常点20%、で評価します。
教科書	授業中に指示します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	枡井　智英						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導
授業の概要	演劇文化にかかわるテーマについての　卒業研究と卒業論文の作成指導。
到達目標	卒業研究のテーマを決定して必要な情報を収集し、ディスカッションや発表を通して理解を深め卒業論文をまとめあげる。
授業計画	前期 １．　卒業研究の進め方 ２．　卒業論文の書き方・作成の仕方① ３．　卒業論文の書き方・作成の仕方② ４～８．　第1回卒論テーマに関する個人発表（文献の要約など） ９～１３．　第2回卒論テーマに関する個人発表（主要テクストや上演などの選定） １４～１５．問題の絞り込みと夏休み期間中の研究計画① 後期 １６．　夏休み期間の研究状況の報告 １７～１９．中間発表 ２０～２４．個別指導による研究の展開と執筆 ２５．　草稿の提出 ２６～２８．提出前点検 ２９～３０．提出論文の講評、再提出指導
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索や、調査などをしっかり行う。討論での意見、教員の指導を積極的に利用する。
授業方法	演習形式および個別指導
評価基準と評価方法	卒業論文８０％　取り組みの姿勢２０％
教科書	
参考書	各自のテーマに応じて決定していく

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒論を書こう
授業の概要	文学・芸術・文化（近現代中心、欧米ー日本中心） 各学生の関心に沿ったテーマによる卒業論文の作成を目指して個別指導する。
到達目標	卒論完成
授業計画	原則として個別指導。３年時４年時のゼミでの授業の実態に合わせた指導となる。 個々の学生の事情や希望に応じて適宜、指導の内容・方法・時期・日時・場所等を個別に相談し進めることになる。 内容の見当として下記を参考までに。各学生の実情に応じて柔軟に対処する。それについては別途説明する。 第１回　主にテーマに関して１　これまでの学習から見直し 第２回　主にテーマに関して２　これまでの学習から検討 第３回　主にテーマに関して３　現在の研究から見直し 第４回　主にテーマに関して４　現在の研究から検討 第５回　主にテーマに関して５　現在の研究から見通し 第６回　主にテーマに関して６　今後の研究へ概観 第７回　主にテーマに関して７　今後の研究へ詳細 第８回　主にテーマに関して８　今後の研究へ問題点 第９回　主に内容に関して１　これまでの学習から見直し 第１０回　主に内容に関して２　これまでの学習から検討 第１１回　主に内容に関して３　現在の研究から見直し 第１２回　主に内容に関して４　現在の研究から見通し 第１３回　主に内容に関して５　今後の研究へ総体 第１４回　主に内容に関して６　今後の研究へ問題点 第１５回　主に内容に関して７　夏季休暇の課題 第１６回　主に内容に関して８　夏季休暇後の見直し 第１７回　主に内容に関して９　夏季休暇後の検討 第１８回　主に内容に関して１０　夏季休暇後の問題点 第１９回　主に内容に関して１１　夏季休暇後の整理 第２０回　主に内容に関して１２　構成に向けて 第２１回　主に構成に関して１　概観 第２２回　主に構成に関して２　詳細 第２３回　主に構成に関して３　具体 第２４回　主に構成に関して４　確定 第２５回　主に記述に関して１　概観 第２６回　主に記述に関して２　詳細 第２７回　主に記述に関して３　具体 第２８回　主に記述に関して４　全体 第２９回　主に提出に関して１　完成 第３０回　主に提出に関して２　修正
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論制作
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点２０％、論文８０％
教科書	適宜、個人的に提示・紹介

参考書	適宜、個人的に提示・紹介

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導
授業の概要	文芸第1演習を修得した者を対象に、比較文学・文芸批評の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。
到達目標	受講生各自が選択した主要テクストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意味で整合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション—卒業研究と卒業論文について 第２回　広い研究トピックの選定(1) 第３回　広い研究トピックの選定(2) 第４回　主要テクストの選定(1) 第５回　主要テクストの選定(2) 第６回　主要テクストの選定(3) 第７回　参考文献の探索(1) 第８回　参考文献の探索(2) 第９回　主要テクストの解題と参考文献リストの作成 第10回　問題の探索(1) 第11回　問題の探索(2) 第12回　問題の探索(3) 第13回　先行研究・資料の収集(1) 第14回　先行研究・資料の収集(2) 第15回　問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画 後期 第１回　第一次草稿提出 第２回　中間報告会(1) 第３回　中間報告会(2) 第４回　個別指導による研究の展開と執筆 第５回　個別指導による研究の展開と執筆 第６回　個別指導による研究の展開と執筆 第７回　個別指導による研究の展開と執筆 第８回　個別指導による研究の展開と執筆 第９回　個別指導による研究の展開と執筆 第10回　個別指導による研究の展開と執筆 第11回　第二次草稿提出 第12回　提出前点検 第13回　提出前点検 第14回　卒業論文試問 第15回　卒業論文試問
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき課業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週２～３名ずつ面談する。
評価基準と評価方法	卒業研究への取組み３０％、提出された卒業論文の出来具合７０％で評価する。
教科書	授業時に指示する。

参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導
授業の概要	文芸第1演習を修得した者を対象に、比較文学・文芸批評の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。
到達目標	受講生各自が選択した主要テクストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意味で整合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション—卒業研究と卒業論文について 第２回　広い研究トピックの選定(1) 第３回　広い研究トピックの選定(2) 第４回　主要テクストの選定(1) 第５回　主要テクストの選定(2) 第６回　主要テクストの選定(3) 第７回　参考文献の探索(1) 第８回　参考文献の探索(2) 第９回　主要テクストの解題と参考文献リストの作成 第10回　問題の探索(1) 第11回　問題の探索(2) 第12回　問題の探索(3) 第13回　先行研究・資料の収集(1) 第14回　先行研究・資料の収集(2) 第15回　問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画 後期 第１回　第一次草稿提出 第２回　中間報告会(1) 第３回　中間報告会(2) 第４回　個別指導による研究の展開と執筆 第５回　個別指導による研究の展開と執筆 第６回　個別指導による研究の展開と執筆 第７回　個別指導による研究の展開と執筆 第８回　個別指導による研究の展開と執筆 第９回　個別指導による研究の展開と執筆 第10回　個別指導による研究の展開と執筆 第11回　第二次草稿提出 第12回　提出前点検 第13回　提出前点検 第14回　卒業論文試問 第15回　卒業論文試問
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき課業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週２～３名ずつ面談する。
評価基準と評価方法	卒業研究への取組み３０％、提出された卒業論文の出来具合７０％で評価する。
教科書	授業時に指示する。

参考書	授業時に指示する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像　衣子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸と文化
授業の概要	文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、 また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に 捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。 ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、 そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・映画・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、 現代文化へと開かれる「１９世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、 試みたい。 このようにして様々な作品表現や表現媒体(メディア)を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、 私たちに身近な親しい事柄、たとえばアリスやピーターラビットたちの思いがけない源に出会えます。
到達目標	私たちの日常の生活や興味関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、 多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わうことができます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　１９世紀西欧近代文化の位置 ３　　西欧文化と日本文化の交流 ４　　[序論] １９世紀後半の歴史状況　欧米と日本　１（フランス・ベルギー） ５　　欧米と日本　２（ドイツ・オーストリア） ６　　欧米と日本　３（イギリス・アメリカ） ７　　欧米と日本　４（スペイン・イタリア） ８　　欧米と日本　５（日本） ９　　[総論]　文芸全体の様子　欧米と日本　１（フランス・ベルギー） １０　欧米と日本　２（ドイツ・オーストリア） １１　欧米と日本　３（イギリス・アメリカ） １２　欧米と日本　４（スペイン・イタリア） １３　欧米と日本　５（日本） １４　まとめ １５　学習の展望
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７５％、レポート等２５％
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像　衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸と文化
授業の概要	文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、 また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に 捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。 ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、 そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・映画・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、 現代文化へと開かれる「１９世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、 試みたい。 このようにして様々な作品表現や表現媒体(メディア)を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、 私たちに身近な親しい事柄、たとえばアリスやピーターラビットたちの思いがけない源に出会えます。
到達目標	私たちの日常の生活や興味関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、 多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わうことができます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 １　授業・研究のガイダンス ２　［各論］　受講生自身の関心に沿った個別の芸術家や作品など ３　　フランス（たとえば、モネ・ミュシャ・ヴェルレーヌ・ドビュッシー） ４　　ベルギー（たとえば、メーテルリンク・アンソール） ５　　ドイツ（たとえば、グリム・ワーグナー・ニーチェ） ６　　オーストリア（たとえば、クリムト・ワルツ・フロイト） ７　　イギリス（たとえば、ビアズリー・モリス・フランダースの犬） ８　　アメリカ（たとえば、ミュージカル・黒人霊歌・トムソーヤの冒険） ９　　スペイン（たとえば、ガウディ・ピカソ・カタロニア） １０　イタリア（たとえば、オペラ・ピノキオ・未来派） １１　日本（たとえば、浮世絵・洋画・漱石・滝廉太郎・歌舞伎） １２　世紀末文化・現代芸術文化への射程 １３　比較文化の成果と意義 １４　研究の展望 １５　総合
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点７５％、レポート等２５％
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	映画に見る現代社会
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。
到達目標	映像を通しての現代世界の理解
授業計画	1回　『Always　三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回　『Always　三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回　『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回　『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回　『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回　『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回　『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回　『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回　『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回　『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回　『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回　『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回　『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回　『遠い夜明け』鑑賞 15回　『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書２冊以上を読むこと。
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期１回ずつ）80%。
教科書	毎回、解説プリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIA						
担当教員	植　朗子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「恋愛論」をめぐる比較文化論
授業の概要	「恋愛」をテーマとする映画や小説やエッセイは古今東西、数多く存在します。この授業では、古典作品から現代の作品までを対象として、「恋愛」の形の変化、結末の在り方について、比較文化的視点から学びます。授業では、「恋愛」に関する雑誌記事、「恋愛」および作品にちなんだ社会文化などについても特別授業の中で紹介します。受講人数が少ない場合は、グループ発表も予定しています。（授業計画の視聴予定作品は、授業の進度によって、内容が変更になることがあります。）
到達目標	「恋愛論」にまつわるエッセイ、「恋愛」を主題とする映画や小説などを見ることからはじめ、それぞれの作品の背景にある、時代、ジェンダー観の変化、地域の特性などについて、知ることができます。また、それに関する論文を読み、自分たちが論文やレポートを書くための技術についても学ぶことができます。授業の最後には論述形式のテストをしますので、皆さんの関心にそった小論を書き上げてもらいます。
授業計画	第１回　　主旨説明 第２回　　「悲恋」を主題とした映画①-境遇と職業『ムーラン・ルージュ』 第３回　　「悲恋」を主題としたミュージカル①-境遇と職業『キャッツ』 第４回　　「悲恋」を主題とした映画②-家族と家柄『ロミオとジュリエット』 第５回　　「悲恋」を主題としたオペラ①-家族と家柄2『トリスタンとイゾルデ』 第６回　　特別講義-「恋愛」を阻害する社会的背景 第７回　　「恋愛」を阻害するもの—マンガから見る「恋愛」と「悲恋」の形 第８回　　「恋愛」を阻害するもの—小説から見る「恋愛」と「悲恋」の形 第９回　　「異常な」恋愛観—『パフューム』 第１０回　特別講義-「恋愛」がもたらす幸福とは何か 第１１回　恋の成就を主題とした映画①-『美女と野獣』 第１２回　恋愛の成就の形①-『ローマの休日』 第１３回　恋愛の成就の形②※授業の流れによって、内容を決めます。 第１４回　まとめ 第１５回　テストと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。
授業方法	講義。
評価基準と評価方法	テスト６０％　平常点４０％
教科書	なし（プリントを配布します）。
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIB						
担当教員	植　朗子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	映画・ドラマにおける「ヒーロー」と「ヒロイン」をめぐる比較文化論
授業の概要	映画作品を中心に、いわゆる「ヒーロー」と「ヒロイン」の系譜について学びます。名作として継承されていく作品の中に登場する主人公たちの魅力は、どういったものから形成されているのでしょうか。それらのヒーロー・ヒロイン像について、文化史的背景から学びます。受講人数が少ない場合は、グループ発表も予定しています。（授業計画の視聴予定作品は、授業の進度によって、内容が変更になることがあります。）
到達目標	さまざまな映画や小説などを見ることからはじめ、それぞれの作品の背景にある、時代、ジェンダー観の変化、地域の特性などについて知ることができます。特徴的な主人公たちの性格、外見、内面、境遇は、それらを生み出した文化的特性に影響を受けています。授業ではそれらの主人公たちについて、みなさんの意見を発表してもらい、それをもとにヒーロー・ヒロインの系譜について論じられるようになります。
授業計画	第１回　主旨説明 第２回　推理・探偵ドラマの主人公たち①-『ガリレオ』と湯川学教授 第３回　推理・探偵ドラマの主人公たち②-『古畑任三郎』と警部補・古畑任三郎 第４回　推理・探偵ドラマの主人公たち③-『シャーロック・ホームズ』 第５回　推理・探偵ドラマの主人公たち④-『名探偵・ポワロ』 第６回　冒険・アクション映画の主人公たち①—『ミッション・インポッシブル』のイーサン・ハント 第７回　冒険・アクション映画の主人公たち②—『カリオストロの城』のルパンⅢ世 第８回　冒険・アクション映画の主人公たち③—『レオン』 第９回　冒険・アクション映画の主人公たち④—『シティー・ハンター』 第１０回　冒険・アクション映画の主人公たち④—『007』 第１１回　王子と王①-『王様と私』 第１２回　王子と王②-『星の王子ニューヨークへ行く』 第１３回　特別講義 第１４回　まとめ 第１５回　テストと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。
授業方法	講義。
評価基準と評価方法	テスト６０％　平常点４０％
教科書	なし（プリントを配布します）。
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVA						
担当教員	押川　かおり						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	『宇治拾遺物語』を読み、中世日本の慣習、思想について考えます。
授業の概要	『宇治拾遺物語』は鎌倉初期に成立した説話集であり、王朝以来の説話を引き継ぎつつ、新たな話も加え編纂しています。テーマごとに説話を読み他の文献とも比較しながら、古代から中世にかけての人々の生きざまを考えて行きます。
到達目標	古典作品を通して、現代との違い、民族としての特性などを理解する。
授業計画	1　中世という時代と『宇治拾遺物語』 2　序文と配列 3　歌人に関する説話　1　男と女 4　歌人に関する説話　2　歌と信仰 5　歌人に関する説話　3　歌の力 6　歌人に関する説話　4　権威に対する視点 7　鬼についての説話　1　鬼の変遷 8　鬼についての説話　2　山岳信仰と鬼 9　鬼についての説話　3　仏教と鬼 10　鬼についての説話　4　百鬼夜行 11　怪異に関する説話　1　聖なるものの怪異 12　怪異に関する説話　2　大陸の説話の享受 13　怪異に関する説話　3　動物の怪異 14　怪異に関する説話　4　物の怪 15　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	本文を読み、ある程度の予習をしておくこと。
授業方法	講読形式
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点30%
教科書	プリントを配布
参考書	第一回の講義時に一覧表を配布。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVB						
担当教員	押川　かおり						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	『宇治拾遺物語』を読み、中世日本の慣習、思想について考えます。
授業の概要	『宇治拾遺物語』は鎌倉初期に成立した説話集であり、王朝以来の説話を引き継ぎつつ、新たな話も加え編纂しています。テーマごとに説話を読み他の文献とも比較しながら、古代から中世にかけての人々の生きざまを考えて行きます。
到達目標	古典作品を通して、現代との違い、民族としての特性などを理解する。
授業計画	１　中世という時代と『宇治拾遺物語』 ２　説話としての『宇治拾遺物語』の特色 ３　夢に関する説話　１　夢と現 ４　夢に関する説話　２　夢あわせ ５　夢に関する説話　３　夢告 ６　夢に関する説話　４　夢告 ７　夢に関する説話　５　神仏との交流 ８　転生に関する説話　１　前世と現世 ９　転生に関する説話　２　大陸の説話の享受 10　転生に関する説話　３　因果応報 11　陰陽道に関する説話　１　陰陽道の概要 12　陰陽道に関する説話　２　安倍清明の活動 13　陰陽道に関する説話　３　安倍清明の神格化と享受 14　陰陽道に関する説話　４　陰陽師と算博士 15　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	事前に本文を読み、ある程度の予習をしておくこと。
授業方法	講読形式
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点30%
教科書	プリントを配布
参考書	第一回の講義時に参考文献一覧を配布

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VA						
担当教員	西川　純司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	広告活動の理解
授業の概要	広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側にいて、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけられています。本講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規 や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思います。
到達目標	・広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。 ・実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになることを目指します。 ・グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。
授業計画	１　イントロダクション ２　広告とは何か ３　マーケティング計画と広告 ４　広告主と広告会社の組織構造 ５　広告計画の構造と調査 ６　広告戦略の立案 ７　広告費 ８　広告表現の計画 ９　広告媒体の計画 １０　ブランド・コミュニケーション １１　広告関連の法規と規制 １２　インターネット広告 １３　レポート検討会 １４　レポート発表会 １５　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成に役立ちます。
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。
評価基準と評価方法	レポート 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論［新版］』、有斐閣

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VB						
担当教員	西川　純司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	広報・広告コミュニケーション
授業の概要	本講義では、広報・広告がコミュニケーションのひとつのかたちであることを理解したうえで、広告（広報）を制作する体験をしてもらいます。まず、広報の基本を確認していきます。その後、映画鑑賞をはさんで、広報・広告が「なにを」「どのように」伝えるものなのかを、実際の広告や広報を分析することで、学びます。これらを踏まえたうえで、最後に、簡単な広告（広報）をつくることに挑戦してもらいます。
到達目標	・広報・PRの基本的な知識が身につきます。 ・簡単な広告をつくることを通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイデアを発信するための力が鍛えられます。
授業計画	１　イントロダクション ２　広報・PRの基本 ３　企業経営と広報 ４　行政・団体と広報 ５　映画鑑賞　『トゥルーマン・ショー』 ６　映画鑑賞　『トゥルーマン・ショー』 ７　映画批評　「トゥルーマン後の世界」 ８　広告を知る（１）：伝え方を学ぶ ９　広告を知る（２）：広告のコンセプトをつかむ １０　広告を知る（３）：広告の表現方法を学ぶ １１　広告をつくる（１）：広告のコンセプトを決める １２　広告をつくる（２）：広告の表現方法を決める １３　広告をつくる（３）：広告を完成させる １４　制作課題発表会 １５　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。 日常的に広告を意識するようにしておくと、制作課題に役立ちます。
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。また、簡単な広告制作も行います。
評価基準と評価方法	制作課題 70%、平常点（授業ての発言や貢献度）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門A						
担当教員	上久保　真理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	美術の歴史や技法の基礎的な知識に触れる.
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気付く。この授業では美術の歴史の概略を辿りつつ、美術制作の基礎に触れることを目指す。長い歴史の中で、それぞれの文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じとろう。
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う.
授業計画	第1回　導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回　輪郭を取る 第3回　写実と記号 第4回　実在しないものを描く（於コンピュータ室） 第5回　キマイラ　（於コンピュータ室） 第6回　形づくる１ー粘土成型ー 第7回　形づくる２ー着色などー 第8回　空間を描く 第9回　遠近法という発明 第10回　アナモルフォーズ１ーグリッドの応用ー 第11回　アナモルフォーズ２ーデフォルメするー 第12回　アナモルフォーズ３ー仕上げー 第13回　痕跡と記録 第14回　身体の軌跡をとらえる 第15回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める. スライド、DVDなどの使用. 希望により学外演習なども含む. 個人もしくはグループ単位での発表や、コンピュータ室での作業もあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による.
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門B						
担当教員	上久保　真理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日本の美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる.
授業の概要	マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だ。でも、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い。この授業では日本美術の歴史や技法の基礎的知識の一端に触れることを目指す。 長い歴史や文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じとろう。
到達目標	日本の美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う.
授業計画	第1回　絵巻の世界ー物語を動かすー 第2回　キャラクターを作るー記号化するー（於コンピュータ室） 第3回　アニメーションを作る１ー描くー　（於コンピュータ室） 第4回　アニメーションを作る２ー動かすー（於コンピュータ室） 第5回　日本の写実 第6回　筆で描く 第7回　浮世絵の世界ー簡略化と平面性ー 第8回　浮世絵を作る１ー下絵ー 第9回　浮世絵を作る２ー版を彫るー 第10回　浮世絵を作る４ー版を摺るー 第11回　西洋と日本 第12回　マンガの手法 第13回　日本の現代美術 第14回　自由制作１ 第15回　自由制作２
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める. スライド、DVDなどの使用. 希望により学外演習なども含む. 個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による.
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門A						
担当教員	東野　泰子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	古代から中世までの日本文学を読む
授業の概要	現代において、新たに生み出されるさまざまな日本の文化・文芸には、古典文学を発想の源としているものが少なくない。日本文学の古代から中世までの流れを概観しながら、現代の文芸に影響を与え続けている古典文学の特性について考える。さらに、古典文学が影響を与えている現代の文化にどのようなものがあるか、考察したい。
到達目標	古代から中世までの日本文学史の基礎的な知識をもつ。 古典文学のテクストのさまざまな様相を読みながら、それらと現代の日本の文芸との相違点を考察する。
授業計画	第１回：世界文学の中の日本文学 第２回：やまとことばと中国語の邂逅ー万葉集 第３回：西欧との接触ー伊曽保物語 第４回：昔話の源流ー浦島太郎とかぐや姫 第５回：貴種流離譚Ⅰー倭健命・在原業平 第６回：貴種流離譚Ⅱー光源氏 第７回：貴種流離譚Ⅲー源義経 第８回：「ものがたり」とはなにかⅠー伊勢物語 第９回：「ものがたり」とはなにかⅡー源氏物語 第10回：自分をかたるー土佐日記・蜻蛉日記・枕草子 第11回：諸行無常Ⅰー方丈記・平家物語 第12回：諸行無常Ⅱー平家物語 第13回：詩語というものー古今和歌集・新古今和歌集 第14回：言葉のリズムー七五調と脚韻 第15回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容をまとめ、自分なりの疑問点を整理しておくこと。 （毎時、前回授業のまとめ等を書いてもらう。） 調べてきてほしいことを授業中に指示する。
授業方法	おもに講義形式をとる。 ほぼ毎時、前回授業のまとめや小テストを課す。
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめの提出、小テスト）60%　期末レポート40%
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門B						
担当教員	武田　悠希						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。
授業の概要	後期は近世から現代までの文学作品を対象とする。
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。 ①江戸時代・明治・大正・昭和・平成までの文学史の流れをつかむ。 ②教養として文学作品を楽しむために、必要な基礎知識を身につける。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　商業出版の成立と出版史概観 第3回　近世の小説の流れ（上方）　仮名草子、浮世草子など 第4回　近世の小説の流れ（江戸）　戯作、読本、草双紙など 第5回　近世の出版統制と実録本 第6回　文明開化期の文学　新聞、つづきもの 第7回　文学改良、日本語表現の模索 第8回　雑誌文化と娯楽読物の諸相 第9回　社会主義と検閲 第10回　文学と大衆化 第11回　外地と文学 第12回　戦後の文学と出版状況 第13回　現代までの展開 第14回　まとめと筆記試験 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容）	近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。したがって、講義内容および文学史についての理解をより深めるためには、事前に取り上げる時代についての予習や、授業中に紹介した参考文献を授業後に参照するなど、授業外の学習が求められる。
授業方法	講義形式で行う。
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%で評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IA						
担当教員	宗像　衣子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸の味わい
授業の概要	文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを 実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった 文化の全体を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。 ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術 （たとえばゴッホ・モネ・ドガ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と 文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら 様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、 着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。 テキスト形態は評論文に限らず、詩や小説、随筆・手紙・映像等にまたがり、 そのプロセスで音楽・音楽家にも触れることになる。また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ。
到達目標	文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたりという 総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会うことができます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の学習状況・希望等によって修正・変更されることがある。 １　　オリエンテーション ２　　ヨーロッパ近現代の芸術家達 ３　　印象派、美術と文学と音楽 ４　　印象派、画家と文学者と音楽家 ５　　印象派以降～現代美術と日本の芸術 ６　　印象派以降～現代美術と日本の文化 ７　　その他関連資料１（文芸） ８　　その他関連資料２（文化） ９　　ヨーロッパと日本の芸術家達 １０　日本の文芸 １１　日本の芸術 １２　その他関連研究１（身辺の文芸） １３　その他関連研究２（身辺の文化） １４　まとめとレポート １５　反省・展開
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点７５％、レポート等２５％
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IB						
担当教員	宗像　衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸の味わい
授業の概要	文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを 実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった 文化の全体を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。 ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術 （たとえばゴッホ・モネ・ドガ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と 文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら 様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、 着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。 テキスト形態は評論文に限らず、詩や小説、随筆・手紙・映像等にまたがり、 そのプロセスで音楽・音楽家にも触れることになる。また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ。
到達目標	文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたりという 総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会うことができます。
授業計画	以下は、常にヨーロッパの芸術・文化、美術・映像・音楽・リズム・文学・詩等との関係において学びます。 出席者の様子・意向に応じて下記内容が変更される場合があります。 １回　授業の出発点と見通し ２回　文芸講読の価値と目標 ３回　日本の画家（東山魁夷の場合）テキスト１（生い立ち、神戸・東京） ４回　同　テキスト２（初期、ドイツ・オーストリアへ） ５回　同　テキスト３（中期、フランス、中国） ６回　同　テキスト４（後期、京都・奈良） ７回　同　テキスト５（最晩年、信州） ８回　全員討議 ９回　希望と状況により学外見学 １０回　アンソロジー１（西洋・絵と言葉と音楽） １１回　同テキスト２（東洋・絵と言葉と音楽） １２回　同テキスト３（東西文化の交流） １３回　討議・討論 １４回　復習とレポート １５回　反省とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点７５％、レポート等２５％
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIA						
担当教員	山田　道夫						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	『シラノ・ド・ベルジュラック』を読む
授業の概要	19世紀末フランスの耽美主義と古典的教養を融合させて、文学史上最大の人気者「鼻のシラノ」を生み出した、ロマンチック・ラブの最高傑作『シラノ・ド・ベルジュラック』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、時代背景、古典の影響など、多様な観点から批判的に読解する。
到達目標	①テクストの漢字や語彙を学んで、文意を正しく把握し、上手に音読・朗読できるようになる。 ②テクストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章が書けるようになる。
授業計画	第１回　イントロダクション（授業の受け方、出席要件、評価方法、テクスト概説） 第２回　第一幕前半講読 第３回　第一幕後半講読、映画ビデオ（第一幕相当部分） 第４回　第二幕前半講読、第一幕漢字読み取りテスト 第５回　第二幕後半講読、映画ビデオ（第二幕相当部分） 第６回　第三幕前半講読、第二幕漢字読み取りデスト 第７回　第三幕後半講読　映画ビデオ（第三幕相当部分） 第８回　第四幕前半講読　第三幕漢字読み取りテスト 第９回　第四幕後半講読　映画ビデオ（第四幕相当部分） 第10回　第五幕前半講読　第四幕漢字読み取りデスト 第11回　第五幕後半講読　映画ビデオ（第五幕相当部分） 第12回　レポートの課題と書き方、第五幕漢字読み取りテスト 第13回　『シラノ』のロマンチック・ラブについて 第14回　シラノとソクラテス 第15回　まとめと展望、期末レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で講読するテクストの範囲を授業までに辞書等を調べながら読んで、疑問点を整理してくる必要がある。
授業方法	講読、教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら一緒に読んでゆく。1幕ごとに漢字の読み取りテストをし、映画『シラノ・ド・ベルジュラック』の対応箇所を観る。
評価基準と評価方法	授業への参加度、準備学習、音読・朗読、漢字テストの点数等による到達目標①の評価５０％ 期末レポートによる到達目標②の評価５０％ 。
教科書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫） エドモン・ロスタン著、鈴木信太郎・辰野隆訳
参考書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫） ロスタン著、渡辺守章訳

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIB						
担当教員	山田　道夫						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	エウリピデスの悲劇『メデイア』を読む
授業の概要	ギリシア古典期の三大悲劇作家のうち、後世もっとも人気のあったエウリピデスの現存作品のうち、映画に舞台にと現代人に対してもとりわけ強烈な訴求力をもつ『メデイア』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、神話的背景等の多様な観点から批判的に読解する。『メデイア』読了後、同じ教科書に収載されている『イオン』を読む。
到達目標	テクストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章を書くことができるようになる。
授業計画	第１回　イントロダクション（テクストおよびギリシア悲劇について、ＤＶＤ『メデイア』） 第２回　プロロゴスとパロドス 第３回　第１エペイソディオン、第１スタシモン 第４回　第２エペイソディオン、第２スタシモン 第５回　第３エペイソディオン、第３スタシモン、小レポート。 第６回　第４エペイソディオン、第４スタシモン 第７回　第５エペイソディオン、第５スタシモン 第８回　第６エペイソディオン、第６スタシモン 第９回　エクソドス 第10回　レポートの課題と考察の観点について ・メデイアはなぜ子殺しをしなければならなかったのか、あるいは殺したのか？ 第11回　レポートの課題と考察の観点について ・『メデイア』のエクソドス 第12回　『イオン』を読む：プロロゴスとパロドス 第13回　『イオン』を読む：エペイソディオン１～２ 第14回　『イオン』を読む：エペイソディオン３～５ 第15回　『イオン』を読む：エクソドス、まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で読むテクストをあらかじめ自分でよく読んで疑問点を整理し、授業後にも読み返す、参考文献を読むなどの予習復習が必要。
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘、受講生同士のディスカッションなどを交えながら、一緒に読んでゆく。
評価基準と評価方法	予習・復習の状況、テクストの音読、受講生同士および教員とのディスカッションなど授業への参加度４０％、学期末レポートの出来具合６０％で評価する。
教科書	『ギリシア悲劇Ⅲ』（ちくま文庫） エウリピデス著、松平千秋他訳、筑摩書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VA						
担当教員	西川　純司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	テレビのメディア社会学
授業の概要	本講義では、タモリという一人のタレントの半生を社会的背景と関連づけながらみることで、テレビ文化やテレビメディアを社会学的に分析する方法を学びます。講義では、はじめに、映像資料を観ることで大まかな戦後日本の歴史を概観します。その後、受講生によるテキストの要約発表をもとに、テレビ文化やテレビメディアを社会的な背景と関連づけて考察していきます。戦後日本のメディア史を分析することで、今後のテレビのあり方を探ります。
到達目標	・テレビ文化やテレビメディアを社会的な背景と結びつけて分析する方法を身につけることができます。 ・戦後日本のテレビメディア史を学ぶことで、今後のテレビのあり方を考える力を養います。
授業計画	１　イントロダクション／発表者の割り当て ２　映像で学ぶ戦後日本（１） ３　映像で学ぶ戦後日本（２） ４　序章を読む ５　第１章を読む ６　第２章を読む ７　第３章を読む ８　第４章を読む ９　第５章を読む（１） １０　第５章を読む（２） １１　第６章を読む（１） １２　第６章を読む（２） １３　第７章を読む １４　終章を読む １５　まとめ ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性かあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる範囲をあらかじめ読んでおく必要があります。 また、授業後にも復習して内容を再確認してほしいと思います。
授業方法	講読。教員による解説、受講生による発表やディスカッション。
評価基準と評価方法	発表40%、平常点（授業ての発言や貢献度）60%、で評価します。
教科書	近藤正高、『タモリと戦後ニッポン』、講談社現代新書
参考書	吉見俊哉、『ポスト戦後社会ーシリーズ日本近現代史９』、岩波新書 長谷正人、『テレビだョ！全員集合』、青弓社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VB						
担当教員	西川　純司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文化の社会学
授業の概要	本講義では、戦後日本における酒文化の社会学的な分析を通じて、消費文化がその時代の社会に強く影響を受けていることを考えます。誰が、どんな場所で、どんなお酒を飲むかは、時代とともに移り変わってきましたし、そ こには社会階層が深く関わってきました。飲酒のあり方や居酒屋の形態が社会的な背景と結びついていることを、統計資料や広告、日記などを使って分析していきます。講義は、受講生によるテキストの要約発表をもとに進めていきます。
到達目標	・文化現象を社会学的な観点から分析する方法を身につけることができます。 ・酒文化から戦後の日本社会の変遷を学ぶことができます。
授業計画	１　イントロダクション／発表者の割り当て ２　文化の社会学とは ３　第１章を読む（１） ４　第１章を読む（２） ５　第２章を読む（１） ６　第２章を読む（２） ７　第３章を読む（１） ８　第３章を読む（２） ９　第４章を読む（１） １０　第４章を読む（２） １１　第５章を読む（１） １２　第５章を読む（２） １３　第６章を読む（１） １４　第６章を読む（２） １５　まとめ ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性かあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる範囲をあらかじめ読んでおく必要があります。 また、授業後にも復習して内容を再確認してほしいと思います。
授業方法	講読。教員による解説、受講生による発表やディスカッション。
評価基準と評価方法	発表40%、平常点（授業ての発言や貢献度）60%、で評価します。
教科書	橋本健二、『居酒屋の戦後史』、祥伝社新書
参考書	吉見俊哉、『ポスト戦後社会ーシリーズ日本近現代史９』、岩波新書 橋本健二、『増補新版 「格差」の戦後史』、河出書房新社

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VIA						
担当教員	枡井　智英						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	戯曲を上演に結びつけて読む力をつける。
授業の概要	日本の代表的劇作家井上ひさしの『天保十二年のシェイクスピア』を読む。戯曲を場面ごとに分析し、舞台演出や俳優の演技、そして舞台美術など実際の舞台上演でどのように具現化されているのか映像を通して学ぶ。またそれとともにテーマ設定がどのようになされている、その作劇術についても考察する。
到達目標	舞台上演を前提とした戯曲の特徴についての理解を深め、上演分析の基礎力を高める。
授業計画	１．　作品の背景とその内容 ２．　戯曲にある約束事 ３．　第１幕１～２とその上演圭氏 ４．　第１幕３～４とその上演形式 ５．　第１幕５～７とその上演形式 ６．　第１幕８～１１とその上演形式 ７．　第１幕１２～１３とその上演形式 ８．　第２幕１４～１５とその上演形式 ９．　第２幕１６～１７とその上演形式 １０．　第２幕１８～１９とその上演形式 １１．　第２幕２０～２１ １２．　まとめ①象徴としての人物 １３．　まとめ②劇におけるサスペンス １４．　まとめ③言葉をアクションに １５．　まとめ④テーマと批評
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習
授業方法	講義を中心に、ビデオを鑑賞しディスカッションも行う。
評価基準と評価方法	授業におけるディスカッションへの参加度やレポート（５０％）期末のレポート（５０％）
教科書	適宜プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VIB						
担当教員	枡井　智英						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。（レジナルド・ローズ『十二人の怒れる男』の作劇術と演技について）
授業の概要	『12人の怒れる男』は元々映画シナリオが決定稿である。上演用台本はそのシナリオを基に構成されている。殺人容疑で起訴された若者が有罪か無罪かの判決をめぐり、12人の陪審員が議論する。このクラスでは、俳優の演技(行動)がいかに作劇術と結びついているかを中心に映画版の演技に注目して分析・考察を行う。また冷戦時代のアメリカに生まれたこの作品の政治性を理解し、社会状況の異なる1997年のリメイク版とを比較する。
到達目標	戯曲分析や上演分析を俳優の演技という視点から行う基礎能力を身につける。
授業計画	１．　作品をその背景 ２．　映画作品と戯曲について ３．　映画『１２人の怒れる男』（１９５７年版）を見る。①　作品解説とビデオ鑑賞 ４．　映画『１２人の怒れる男』（１９５７年版）を見る。②　ビデオを見て事件の詳細について情報収集 ５．　演技を考える：与えられた状況(演じる役) ６．　演技を考える：与えられた状況（演技する環境） ７．　演技を考える：キャラクター分析と内容理解①　スイッチナイフに関する討論場面より ８．　演技を考える：キャラクター分析と内容理解②　トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に ９．　演技を考える：キャラクター分析と内容理解③　前半の2番、5番、11番を中心に １０．物語の展開と作品の背景について １１．映画『１２人の怒れる男』（１９９７年版）の特徴と時代背景 １２．映画『１２人の怒れる男』（１９９７年版）を見る。 １３．１９５７年版と１９９７年版の登場人物の比較①　11番の比較 １４．１９５７年版と１９９７年版の登場人物の比較②　2番、4番、7番を中心に １５．まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習、レポートの作成。
授業方法	ビデオ鑑賞と講義が中心。演技の分析ワークも行う。
評価基準と評価方法	授業の平常点（４０％）期末レポート（６０％）
教科書	適宜プリントを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIB						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	日本文芸と映画 夏目漱石『それから』とその映画表現の比較
授業の概要	漱石『それから』の舞台は、日露戦争勝利後の日本。西欧列強に追いつき、追い越せとばかり、国中がアクセクしているなか、親からの仕送りをもらい、朝食には紅茶とトーストを食べ、暇にまかせて英文書を読み漁る主人公の代助。優雅な高等遊民生活を送っていた彼だが、友人の妻を愛することによって運命が一変する。個人主義のなかった明治期日本で、個人的情念を貫いた結果、社会や家族制度によって個人がいかに押しつぶされていくかが、この小説のテーマである。1985年製作の森田芳光監督の映画化作品は、当時の社会風景と主人公の内的葛藤を、独特な映像センスで活写している。代助を演じる松田優作も味がある。
到達目標	文学テクストの読解と、その映像的解釈の鑑賞
授業計画	第１回：単位認定の説明、『それから』と日露戦争後の日本に関する解説 第２回：p.5-p.30　輪読 第３回：p.31-p.61　輪読 第４回：p.62-p.92　輪読 第５回：p.93-p.123　輪読 第６回：p.124-p.154　輪読 第７回：p.155-p.185　輪読 第８回：p.186-p.216　輪読 第９回：p.217-p.247　輪読 第１０回：映画『それから』鑑賞 第１１回：映画『それから』鑑賞 第１２回：p.245-p.275　輪読 第１３回：p.276-p.306　輪読、仮レポート提出 第１４回：p.307-最後　輪読 第１５回：『それから』に関する評論の輪読、添削した仮レポート返却
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと
授業方法	講義
評価基準と評価方法	出席率２０％、レポート内容８０％により総合的に評価。
教科書	夏目漱石『それから』（新潮文庫）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習I						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相
授業の概要	文芸をめぐる諸問題を、主に以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学　―　芸術（美術系・音楽系・複合系[映画・演劇等]）―　社会・思想・文化 時代：近代（18・19世紀）―　現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ―東洋・日本 ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の考察を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表を試みてゆく。 皆でそれを検討することによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がこの研究領域のおもしろさや繋がりに親しみ、味わって、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。
到達目標	自分自身の身近な興味関心から出発し、言語文献を読むだけでなく、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、 世界の文芸の表現や表現媒体（メディア）から様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を互いに知り、重ね、繋がりを見つけることで、 思いもかけない楽しみや自分が広がり深まり変わるよろこびを たくさん発見できます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 １回　　演習オリエンテーション ２～１１回　4年生による研究発表と討論 １２～１５回　補足討論・関連資料研究・まとめ 　　見学授業を含む場合がある 後期 １６回　　演習ガイダンス １７～２４回　３年生による研究発表と討議 ２５～３０回　補足討論・関連資料研究 　　見学授業を含む場合がある
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	日本の風景・西欧の景観 A.ベルク著 篠田勝英訳(講談社)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習II						
担当教員	枡井　智英						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	演劇学にかかわる様々な要素の理解
授業の概要	総合芸術といわれる演劇は、戯曲、俳優、演出、美術、音楽など様々な要素が集結して創造される。演劇が成立する諸要素と文体上演分析に必要な基本的理論を学ぶ中で演劇に対する理解を深め、多様な研究テーマの提示をしていく。
到達目標	演劇の批評能力を高め、卒論に向けたテーマ設定ができるようになる。
授業計画	１．　イントロダクション ２～７．　『夏の夜の夢』を読む。演劇の諸要素：空間、上演、演出、ジャンル、演技論、舞台美術 ８．　観劇実習に向けて作品を調べる。 ９．　観劇実習 １０．　観劇した作品の批評 １１～１３．『夏の夜の夢』のキャラクター分析 １４．　『夏の夜の夢』映画作品、あるいは舞台上演の比較 １５．　『夏の夜の夢』映画作品、あるいは舞台上演の比較と前期のまとめ １６．　後期イントロダクション １７～２１．４年生が関心のあるテーマについて発表 ２２．　観劇実習にむけて作品を調べる。 ２３．　観劇実習 ２４．　観劇した作品の批評 ２５～２９．３年生の発表(戯曲や論文について) ３０．　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかり精読しておく。 個人発表の準備
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり
評価基準と評価方法	授業への参加態度。個人発表やレポート等により総合的に評価する。
教科書	ウィリアム・シェイクスピア/小田島雄志訳『夏の夜の夢』白水社、１９８３
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワーズ』ぺりかん社、２００７

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習III						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。 取り扱う主要なテクストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記など。前期は「抑圧された女たちとカタルシス」という観点からオレステイア劇の「エレクトラ」について調べ、異なる作者の異なるエレクトラ像、オレステス像がどのように造型されているかを考察し、後期はそれらと比較対照しながら、『古事記』やエウリピデスの『タウリケのイピゲネイア』『ヘレネー』に考察の範囲を拡げていく。
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テクストを深く、また相互に比較して多面的に考察し、自分なりの筋の通った解釈や批評を組み立てることができるようになること。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション、テクスト・参考文献概説 第２回　オレステイア劇と「エレクトラ」 第３回　アイスキュロス「オレステイア」三部作の場合 第４回　アイスキュロス『供養する女たち』 第５回　ソポクレス『エレクトラ』(1) 第６回　ソポクレス『エレクトラ』(2) 第７回　ソポクレス『エレクトラ』(3) 第８回　エウリピデス『エレクトラ』(1) 第９回　エウリピデス『エレクトラ』(2) 第10回　エウリピデス『エレクトラ』(3) 第11回　アリストテレス『詩学』(1) 第12回　アリストテレス『詩学』(2) 第13回　4回生による調査発表(1) 第14回　4回生による調査発表(2) 第15回　まとめと展望、レポート課題の説明 後期 第１回　『古事記』「沙本毘古と沙本毘売、前期レポート提出 第２回　『古事記』「石之日売皇后の嫉妬」 第３回　『古事記』「速総別王と女鳥王」 第４回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(1) 第５回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(2) 第６回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(3) 第７回　エウリピデス『ヘレネー』(1) 第８回　エウリピデス『ヘレネー』(2) 第９回　エウリピデス『ヘレネー』(3) 第10回　アリストテレス『詩学』(1) 第11回　アリストテレス『詩学』(2) 第12回　３回生による調査発表とディスカッション(1) 第13回　３回生による調査発表とディスカッション(2) 第14回　３回生による調査発表とディスカッション(3) 第15回　まとめと展望、後期レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテクストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。
授業方法	演習。あらかじめ自分で拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい、議論する。4回生は前期、3回生は後期に、ひとり一度ずつまとまった研究発表を行う。
評価基準と評価方法	準備学習と授業への参加度、取組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。
教科書	授業時に指示する

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習IV						
担当教員	打田　素之・柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	アガサ・クリスティーの推理小説の魅力とミステリーの歴史を知ること。
授業の概要	「ミステリーの女王」と称されるアガサ・クリスティー（1890-1976）の最大傑作2篇『そして誰もいなくなった』『アクロイド殺害事件』を読み込み、散文小説のジャンルの一つであるミステリーの本質と歴史、20世紀前半のイギリス社会状況、日本における推理小説の発展史などについて考えていく。 　推理小説（明治・大正期には「探偵小説」と呼ばれた）は、19世紀のアメリカ人作家エドガーアラン・ポーの短編「モルグ街の殺人」（1841）に端を発し、シャーロック・ホームズ物を発表したコナン・ドイルへと受け継がれた。クリスティーはこれらの伝統を吸収し、「謎解き」の面白さを世界に広めた。日本でも、黒岩涙香や江戸川乱歩が彼女の影響をこうむった。 　ミステリーのだいごみは、フィクション内で提示された事実に基づき、読者が時空間・人物関係に関してあれこれと推測をめぐらせるものの、それらの予期に反し、物語の最後で「どんでん返し」が引き起こされることにある。このパターンは、日本のテレビドラマのミステリー物に至るまで、連綿として続いている。ミステリーの作者はパターンの複雑性について熟考し、ありとあらゆる精巧なトリック（仕掛け）を考案しなければならない。ミステリーの歴史におけるトリックの進化についても検討していきたい。 　授業は、配布する論文・著作の要約報告、興味のあるテーマについての研究発表、そしてテクストの輪読から構成される。以上のほか、前期にはポーの短編「モルグ街の殺人」「マリー・ロジェの謎」「盗まれた手紙」「黄金虫」「黒猫」、後期には松本清張の『点と線』を、それぞれ5人に要約してもらう。
到達目標	本を読みながら、考えるという知的能力を養うと同時に、ミステリーの面白さに触れること。
授業計画	（前期） 第１回：授業概要・成績評価の説明。エドガー・アラン・ポーからアガサ・クリスティーまでの推理小説史に関する概説。研究発表者の割り振り。 第２～３回：『そして誰もいなくなった』を一緒に読む。 第４～１３回：１回に、１人が研究発表、１人が『英国古典探偵小説を読む』の要約発表、残った時間は『そして誰もいなくなった』の輪読。 第１４～１５回　映画『そして誰もいなくなった』の鑑賞と討議。 （後期） 第１６～１７回：『アクロイド殺害事件』を一緒に読む。 第１８～２８回：１回に、１人が研究発表、１人が『日本ミステリー小説史』の要約発表、残った時間は『アクロイド殺害事件』の輪読。 第２９～３０回　イギリスのテレビドラマ『アクロイド殺害事件』の鑑賞と討議。
授業外における学習（準備学習の内容）	論文の要約と自己研究の発表を課する。
授業方法	初めはテクストの輪読。 慣れてきたら個人研究発表、配布する論文の要約発表、テクストの輪読という３本立て。
評価基準と評価方法	出席率２０％、研究発表の内容４０％、レポートの内容４０％に基づき総合的に評価。
教科書	アガサ・クリスティー、青木久千惠訳『そして誰もいなくなった』（ハヤカワ文庫、2010年） ＜ISBN: 978-4-15-131080-5＞ アガサ・クリスティー、大久保康雄訳『アクロイド殺害事件』（創元推理文庫、1959年） ＜ISBN: 4-488-10543-2＞
参考書	廣野由美子『英国古典探偵小説を読む』（岩波新書、2009年） 堀啓子『日本ミステリー小説史』（中公新書、2014年）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習V						
担当教員	西川　純司						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	メディア文化の社会学
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット）、文芸、サブカル（漫画やアニメ）、広報・広告、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればフィールドワークを行います。
到達目標	・メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。 ・さまざまな先行研究を読み解きながら、研究を遂行するための技法を習得します。
授業計画	前期 １　イントロタクション／テキスト選定、発表者割り当て ２〜３　テキスト講読 ４〜９　４回生による研究発表とディスカッション １０〜１４　３回生によるテキストの要約発表とティスカッション １５　まとめ 後期 １６　イントロタクション／テキスト選定、発表者割り当て １７〜２２　４回生による研究発表とディスカッション ２３〜２７　３回生によるテキストの要約発表とティスカッション ２８〜２９　フィールドワーク ３０　まとめ ・テキストは、初回に教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。また、可能であればフィールドワークも行う予定です。
授業外における学習（準備学習の内容）	全員が事前にテキストに目を通して、自分の考えや疑問を整理したうえで授業に出席してもらいます。また、自分が発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで内容をまとめるなど、準備をしっかりとしてもらいます。
授業方法	演習。テキストの要約発表、個人発表、ディスカッションを中心とします。
評価基準と評価方法	発表50%、平常点（発表内容や討議への参加度）50%、で評価します。
教科書	授業中に指定します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習I						
担当教員	宗像　衣子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相
授業の概要	文芸をめぐる諸問題を、主に以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学　―　芸術（美術系・音楽系・複合系[映画・演劇等]）―　社会・思想・文化 時代：近代（18・19世紀）―　現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ―東洋・日本 ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の考察を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表を試みてゆく。 皆でそれを検討することによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がこの研究領域のおもしろさや繋がりに親しみ、味わって、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。
到達目標	自分自身の身近な興味関心から出発し、言語文献を読むだけでなく、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、 世界の文芸の表現や表現媒体（メディア）から様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を互いに知り、重ね、繋がりを見つけることで、 思いもかけない楽しみや自分が広がり深まり変わるよろこびを たくさん発見できます。
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 １回　　演習オリエンテーション ２～１１回　4年生による研究発表と討論 １２～１５回　補足討論・関連資料研究・まとめ 　　見学授業を含む場合がある 後期 １６回　　演習ガイダンス １７～２４回　３年生による研究発表と討議 ２５～３０回　補足討論・関連資料研究 　　見学授業を含む場合がある
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点８０％、レポート等２０％
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。
参考書	日本の風景・西欧の景観 A.ベルク著 篠田勝英訳(講談社)

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習II						
担当教員	枡井　智英						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	演劇学にかかわる様々な要素の理解
授業の概要	総合芸術といわれる演劇は、戯曲、俳優、演出、美術、音楽など様々な要素が集結して創造される。演劇が成立する諸要素と文体上演分析に必要な基本的理論を学ぶ中で演劇に対する理解を深め、多様な研究テーマの提示をしていく。
到達目標	演劇の批評能力を高め、卒論に向けたテーマ設定ができるようになる。
授業計画	１．　イントロダクション ２～７．　『夏の夜の夢』を読む。演劇の諸要素：空間、上演、演出、ジャンル、演技論、舞台美術 ８．　観劇実習に向けて作品を調べる。 ９．　観劇実習 １０．　観劇した作品の批評 １１～１３．『夏の夜の夢』のキャラクター分析 １４．　『夏の夜の夢』映画作品、あるいは舞台上演の比較 １５．　『夏の夜の夢』映画作品、あるいは舞台上演の比較と前期のまとめ １６．　後期イントロダクション １７～２１．４年生が関心のあるテーマについて発表 ２２．　観劇実習にむけて作品を調べる。 ２３．　観劇実習 ２４．　観劇した作品の批評 ２５～２９．３年生の発表(戯曲や論文について) ３０．　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかり精読しておく。 個人発表の準備
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり
評価基準と評価方法	授業への参加態度。個人発表やレポート等により総合的に評価する。
教科書	ウィリアム・シェイクスピア/小田島雄志訳『夏の夜の夢』白水社、１９８３
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワーズ』ぺりかん社、２００７

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習III／文芸第2演習IV						
担当教員	山田　道夫						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。 取り扱う主要なテクストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記など。前期は「抑圧された女たちとカタルシス」という観点からオレステイア劇の「エレクトラ」について調べ、異なる作者の異なるエレクトラ像、オレステス像がどのように造型されているかを考察し、後期はそれらと比較対照しながら、『古事記』やエウリピデスの『タウリケのイピゲネイア』『ヘレネー』に考察の範囲を拡げていく。
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テクストを深く、また相互に比較して多面的に考察し、自分なりの筋の通った解釈や批評を組み立てることができるようになること。
授業計画	前期 第１回　イントロダクション、テクスト・参考文献概説 第２回　オレステイア劇と「エレクトラ」 第３回　アイスキュロス「オレステイア」三部作の場合 第４回　アイスキュロス『供養する女たち』 第５回　ソポクレス『エレクトラ』(1) 第６回　ソポクレス『エレクトラ』(2) 第７回　ソポクレス『エレクトラ』(3) 第８回　エウリピデス『エレクトラ』(1) 第９回　エウリピデス『エレクトラ』(2) 第10回　エウリピデス『エレクトラ』(3) 第11回　アリストテレス『詩学』(1) 第12回　アリストテレス『詩学』(2) 第13回　4回生による調査発表(1) 第14回　4回生による調査発表(2) 第15回　まとめと展望、レポート課題の説明 後期 第１回　『古事記』「沙本毘古と沙本毘売、前期レポート提出 第２回　『古事記』「石之日売皇后の嫉妬」 第３回　『古事記』「速総別王と女鳥王」 第４回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(1) 第５回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(2) 第６回　エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(3) 第７回　エウリピデス『ヘレネー』(1) 第８回　エウリピデス『ヘレネー』(2) 第９回　エウリピデス『ヘレネー』(3) 第10回　アリストテレス『詩学』(1) 第11回　アリストテレス『詩学』(2) 第12回　３回生による調査発表とディスカッション(1) 第13回　３回生による調査発表とディスカッション(2) 第14回　３回生による調査発表とディスカッション(3) 第15回　まとめと展望、後期レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテクストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。
授業方法	演習。あらかじめ自分で拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい、議論する。4回生は前期、3回生は後期に、ひとり一度ずつまとまった研究発表を行う。
評価基準と評価方法	準備学習と授業への参加度、取組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。
教科書	授業時に指示する

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習IV／文芸第2演習V						
担当教員	打田　素之・柿沼　伸明						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	アガサ・クリスティーの推理小説の魅力とミステリーの歴史を知ること。
授業の概要	「ミステリーの女王」と称されるアガサ・クリスティー（1890-1976）の最大傑作2篇『そして誰もいなくなった』『アクロイド殺害事件』を読み込み、散文小説のジャンルの一つであるミステリーの本質と歴史、20世紀前半のイギリス社会状況、日本における推理小説の発展史などについて考えていく。 　推理小説（明治・大正期には「探偵小説」と呼ばれた）は、19世紀のアメリカ人作家エドガーアラン・ポーの短編「モルグ街の殺人」（1841）に端を発し、シャーロック・ホームズ物を発表したコナン・ドイルへと受け継がれた。クリスティーはこれらの伝統を吸収し、「謎解き」の面白さを世界に広めた。日本でも、黒岩涙香や江戸川乱歩が彼女の影響をこうむった。 　ミステリーのだいごみは、フィクション内で提示された事実に基づき、読者が時空間・人物関係に関してあれこれと推測をめぐらせるものの、それらの予期に反し、物語の最後で「どんでん返し」が引き起こされることにある。このパターンは、日本のテレビドラマのミステリー物に至るまで、連綿として続いている。ミステリーの作者はパターンの複雑性について熟考し、ありとあらゆる精巧なトリック（仕掛け）を考案しなければならない。ミステリーの歴史におけるトリックの進化についても検討していきたい。 　授業は、配布する論文・著作の要約報告、興味のあるテーマについての研究発表、そしてテクストの輪読から構成される。以上のほか、前期にはポーの短編「モルグ街の殺人」「マリー・ロジェの謎」「盗まれた手紙」「黄金虫」「黒猫」、後期には松本清張の『点と線』を、それぞれ5人に要約してもらう。
到達目標	本を読みながら、考えるという知的能力を養うと同時に、ミステリーの面白さに触れること。
授業計画	（前期） 第１回：授業概要・成績評価の説明。エドガー・アラン・ポーからアガサ・クリスティーまでの推理小説史に関する概説。研究発表者の割り振り。 第２～３回：『そして誰もいなくなった』を一緒に読む。 第４～１３回：１回に、１人が研究発表、１人が『英国古典探偵小説を読む』の要約発表、残った時間は『そして誰もいなくなった』の輪読。 第１４～１５回　映画『そして誰もいなくなった』の鑑賞と討議。 （後期） 第１６～１７回：『アクロイド殺害事件』を一緒に読む。 第１８～２８回：１回に、１人が研究発表、１人が『日本ミステリー小説史』の要約発表、残った時間は『アクロイド殺害事件』の輪読。 第２９～３０回　イギリスのテレビドラマ『アクロイド殺害事件』の鑑賞と討議。
授業外における学習（準備学習の内容）	論文の要約と自己研究の発表を課する。
授業方法	初めはテクストの輪読。 慣れてきたら個人研究発表、配布する論文の要約発表、テクストの輪読という３本立て。
評価基準と評価方法	出席率２０％、研究発表の内容４０％、レポートの内容４０％に基づき総合的に評価。
教科書	アガサ・クリスティー、青木久千惠訳『そして誰もいなくなった』（ハヤカワ文庫、2010年） ＜ISBN: 978-4-15-131080-5＞ アガサ・クリスティー、大久保康雄訳『アクロイド殺害事件』（創元推理文庫、1959年） ＜ISBN: 4-488-10543-2＞
参考書	廣野由美子『英国古典探偵小説を読む』（岩波新書、2009年） 堀啓子『日本ミステリー小説史』（中公新書、2014年）

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V／文芸第2演習VI						
担当教員	西川　純司						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	メディア文化の社会学
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット）、文芸、サブカル（漫画やアニメ）、広報・広告、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればフィールドワークを行います。
到達目標	・メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。 ・さまざまな先行研究を読み解きながら、研究を遂行するための技法を習得します。
授業計画	前期 １　イントロタクション／テキスト選定、発表者割り当て ２〜３　テキスト講読 ４〜９　４回生による研究発表とディスカッション １０〜１４　３回生によるテキストの要約発表とティスカッション １５　まとめ 後期 １６　イントロタクション／テキスト選定、発表者割り当て １７〜２２　４回生による研究発表とディスカッション ２３〜２７　３回生によるテキストの要約発表とティスカッション ２８〜２９　フィールドワーク ３０　まとめ ・テキストは、初回に教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。また、可能であればフィールドワークも行う予定です。
授業外における学習（準備学習の内容）	全員が事前にテキストに目を通して、自分の考えや疑問を整理したうえで授業に出席してもらいます。また、自分が発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで内容をまとめるなど、準備をしっかりとしてもらいます。
授業方法	演習。テキストの要約発表、個人発表、ディスカッションを中心とします。
評価基準と評価方法	発表50%、平常点（発表内容や討議への参加度）50%、で評価します。
教科書	授業中に指定します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIA／文芸特殊講義E／（キリスト教美術A）						
担当教員	上久保　真理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを、「作品を」解釈を通じて考察する。
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、眼には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。眼に見えないものを解釈し、眼に見えるかたちに置き換えるという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の美術を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教が培ってきたものに想いを馳せよう。 前期は東方に始まるキリスト教世界の図像学的伝統に主眼を置くこととする。
到達目標	東方に始まるキリスト教世界の図像学的伝統の一端に触れ、キリスト教美術のより深い理解を目指す。
授業計画	第1回　導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回　エジプトとキリスト教 第3回　ユダヤ教とキリスト教 第4回　ギリシャ・ローマ 第5回　ローマ帝国とキリスト教 第6回　象徴と暗示 第7回　十字架をめぐって 第8回　教会の建築 第9回　モザイク画とイコン 第10回　聖人と造形芸術 第11回　触覚 第12回　視覚 第13回　聴覚 第14回　イコノクラスムとローマ帝国の崩壊 第15回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義形式. スライド、DVDなどの使用. 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIB／文芸特殊講義F／（キリスト教と美術B）						
担当教員	上久保　真理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを、「作品を」解釈を通じて考察する。
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、眼には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。眼に見えないものを解釈し、眼に見えるかたちに置き換えるという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の美術を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教が培ってきたものに想いを馳せよう。 後期は宗派による美術のとらえ方の違いとその影響にスポットを当てる。
到達目標	キリスト教西欧の美術の流れと多様化を概観し、キリスト教と美術との関わりについて考察する。
授業計画	第1回　導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回　ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第3回　異民族とキリスト教 第4回　カロリング朝とオットー朝の美術 第5回　修道院・巡礼・十字軍 第6回　ロマネスク美術 第7回　都市の発達と大聖堂 第8回　ゴシック美術 第9回　ルネサンスの息吹 第10回　ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回　宗教改革とプロテスタント 第12回　反宗教改革と異端の概念 第13回　プロテスタンティズムと美術の世俗化 第14回　映画の中のキリスト教 第15回　まとめと展望
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみること. また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみること. 授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備.
授業方法	講義形式. スライド、DVDなどの使用. 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり.
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による
教科書	適宜プリントを配布する.
参考書	授業中に随時紹介する.

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIA／（日本ジャーナリズム史）						
担当教員	西川　純司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	歴史からみる日本のジャーナリズムとメディア
授業の概要	たとえプロのジャーナリストにはならなくても、インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムの原理や歴史を知っておくことは重要です。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき日本のジャーナリズムの歴史について概括的に学びます。ます、現在の日本のジャーナリズムにみられる特質や問題点が、どのようにして歴史的にできあがってきたのかをトピックごとに考えます。 その後、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、それらが報道や評論活動をいかに規定してきたのかを検討します。歴史を学ぶことは、単に過去を知るだけではなく、現在や未来を考えるヒントを探ることに他なりません。
到達目標	・日本のジャーナリズムの歴史について最低限知っておくべき知識が得られます。 ・歴史を知ることで、現在、そしてこれからのジャーナリズムのあり方を考える手がかりがつかめるようになります。
授業計画	１　イントロダクション ２　なぜジャーナリズムを学ぶのか？ ３　ジャーナリズムとは何か ４　ジャーナリズムとメディア ５　日本のジャーナリズム（１）：言論の自由 ６　日本のジャーナリズム（２）：客観報道 ７　日本のジャーナリズム（３）：人権と報道 ８　日本のジャーナリズム（４）：コマーシャリズム ９　日本のジャーナリズム（５）：記者クラブ １０　メディア史（１）：新聞 １１　メディア史（２）：出版 １２　メディア史（３）：テレビ １３　メディア史（４）：インターネット １４　レポート検討会 １５　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 また、日常的にニュースや新聞を意識して見たうえで授業に臨んでほしいと思います。
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業ての発言や貢献度）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIB／（メディア社会の諸問題）						
担当教員	西川　純司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	写真から考えるメディア社会
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられます。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すことがあります。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、「晒され」たり編集・加工されたりもします。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアですが、それゆえときに問題を引き起こすことがあります。この授業では、毎回テーマに沿った写真をもとに、写真というメディアがもつ特質やそれがもたらす諸問題について考えてみます。また、実際に写真を撮ることもします。
到達目標	・写真を批判的に読み解くための方法が身につきます。 ・写真の撮影を通して、表現方法（メッセージを伝える力）を磨くことができます。
授業計画	１　イントロダクション ２　写真とは何か ３　写真を分析する視点 ４　報道と写真（１）：報道写真 ５　報道と写真（２）：異文化の表象 ６　消費と写真（１）：観光 ７　消費と写真（２）：広告 ８　中間発表会 ９　文化と写真（１）：ネット（フロク・ツイッター）と共有 １０　文化と写真（２）：写真加工 １１　写真で表現する（１）：テーマを決める １２　写真で表現する（２）：被写体を決める １３　写真で表現する（３）：撮影技法を決める １４　制作課題発表会 １５　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する文献を読んでおくと理解が深まります。また、日常的に写真に興味をもち好きになることも学習です。
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。また、簡単な制作課題にも取り組んでもらいます。
評価基準と評価方法	制作課題70%、平常点（授業ての発言や貢献度）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	授業中に適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義VA／（演劇と文芸）						
担当教員	枡井　智英						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	演劇の歴史性とジャンル
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマ・シアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代性、または上演技術の発展なども含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。
授業計画	１．　文芸と演劇について ２．　ルネサンス期：シェイクスピア①　『ハムレット』と現代映画 ３．　ルネサンス期：シェイクスピア②　『ヘンリー5世』と現代映画 ４．　ルネサンス期：シェイクスピア③　『ロミオとジュリエット』と現代映画 ５．　ルネサンス期：シェイクスピア④　グローブ座とその演劇性 ６．　中世：大道芸とその現在　①海外のオーディション番組を見て ７．　中世：大道芸とその現在　②チャップリンからローワン・アトキンソンへ ８．　近代：イプセン①　イプセンについて ９．　近代：イプセン②　『人形の家』に見られるドアのテクニック １０．　近代：自然主義からから表現主義までの流れ １１．　近代：象徴主義・不条理演劇　①　不条理劇について １２．　近代：象徴主義・不条理演劇　②　メーテルリンクとベケットの作劇術 １３．　現代：ブレヒト①　叙事演劇について　『コーカサスの白墨の輪』の紹介 １４．　現代：ブレヒト②　現代劇への影響について １５．　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	渡されたテキストの予習
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50%）、期末レポート（50%）
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義VB／（演劇と文芸）						
担当教員	枡井　智英						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	演劇の歴史性とジャンル
授業の概要	西洋と日本の現代演劇の概説を含め、ドラマ・シアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代性、または上演技術の発展なども含めて紹介と考察を行う。
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。
授業計画	１．　日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について ２．　日本の戦後新劇：②　戦後新劇の大衆化と映画界との関係について ３．　日本の小劇場：寺山修二①　1960年代における日本の小劇場運動 ４．　日本の小劇場：寺山修二②　初期の実践『毛皮のマリー』の考察 ５．　日本の小劇場：寺山修二③　後期の実践　観客との境界線をなくす試み ６．　日本の小劇場：1980年代①　つかこうへいの功績 ７．　日本の小劇場：1980年代②　バブル景気という背景と小劇場 ８．　日本の小劇場：1980年代③　野田秀樹と鴻上尚史などの実践 ９．　英米の現代演劇①　スタニスラフスキー・システムの実践と演技術の発展 １０．　英米の現代演劇②　フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー １１．　英米の現代演劇③　ポスト・コロニアリズム １２．　ブロードウェイ・ミュージカル①　ミュージカルの定義とその歴史 １３．　ブロードウェイ・ミュージカル②　1980年代のスペクタクルなミュージカル １４．　ブロードウェイ・ミュージカル③　多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル １５．　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	渡されたテキストの予習
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50%）、期末レポート（50%）
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIA						
担当教員	木下　昌輝						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	創作の基礎を身につける。
授業の概要	小説を創作するために必要な物語の構成、描写、人物造形どの基礎を学びます。 また読書会や課題の合評会などを行い、他者の作品をいかに読み込み批評するかの方法を学び、それを創作に活かします。
到達目標	文芸作品を創作、鑑賞する上での基礎を習得し、作品を完成させます。
授業計画	第01回　全体説明　自分の好きな小説について 第02回　原稿のルールについて 第03回　物語の構造とレシピの説明　A→Bの物語の変化を説明 第04回　A→Bの課題発表 第05回　好きな作品を筆写する 第06回　筆写の課題発表 第07回　読書会 講師の課題本の合評 第08回　写真を見て、人物の履歴書を作る 第09回　履歴書の課題発表 第10回　昔話をベースにして物語をアレンジする 第11回　昔話をアレンジした課題発表 第12回　夢をテーマに物語をつくる 第13回　夢をテーマにした課題発表 講師による評価 第14回　夢をテーマにした課題発表　生徒同士による評価 第15回　読書会 生徒が選んだ課題本の合評
授業外における学習（準備学習の内容）	課題にしたがって、400字～2000字の作品を制作し、期間内に提出してください。
授業方法	講義および課題提出と課題細工品の鑑賞。
評価基準と評価方法	授業態度や課題の〆切を守れたかなどの平常点が50点 課題の出来栄えが50点
教科書	特になし。
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIB						
担当教員	木下　昌輝						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	創作の基礎を身につける。
授業の概要	小説を創作するために必要な物語の構成、描写、人物造形どの基礎を学びます。 また読書会や課題の合評会などを行い、他者の作品をいかに読み込み批評するかの方法を学び、それを創作に活かします。
到達目標	文芸作品を創作、鑑賞する上での基礎を習得し、作品を完成させます。
授業計画	第01回　導入と質疑応答 第02回　語彙を増やす練習 第03回　覚えた語彙で物語をつくる 第04回　覚えた語彙で作った物語の発表 第05回　写真を見て描写する　１ 第06回　写真を見て描写する　２　ストーリーを考えての描写 第07回　読書会　講師の課題本の合評 第08回　写真を見て物語をつくる 第09回　写真を見てつくった課題発表 第10回　禁じ手を設定して書く練習 第11回　禁じ手を設定してつくった課題発表 第12回　未来をテーマに物語をつくる 第13回　未来をテーマにした課題発表　講師による合評 第14回　未来をテーマにした課題発表　生徒同士による合評 第15回　読書会　生徒が選んだ課題本の合評
授業外における学習（準備学習の内容）	課題にしたがって、400字〜2000字の作品を制作し、期間内に提出してください。
授業方法	講義および課題提出と課題細工品の鑑賞。
評価基準と評価方法	授業態度や課題の〆切を守れたかなどの平常点が50点 課題の出来栄えが50点
教科書	特になし。
参考書	特になし。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIA						
担当教員	岩崎　正裕						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸作品の音読研究
授業の概要	戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。
到達目標	台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。
授業計画	１.シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む　物語と構造を中心に ２.シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む　恋愛と登場人物について ３.シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む　現代における翻案の可能性 ４.シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む　音読と実践 ５.チェーホフ「かもめ」を読む　物語と構造を中心に ６.チェーホフ「かもめ」を読む　人物の関係性と恋愛模様 ７.チェーホフ「かもめ」を読む　台詞の解釈と謎解き ８.チェーホフ「かもめ」を読む　音読と実践 ９.地域言語による戯曲の可能性Ⅰ　関西弁の台詞を読む １０.地域言語による戯曲の可能性Ⅱ　関西弁と標準語の差異 Ⅰ１.現代詩を群読するⅠ　谷川俊太郎の詩を読む Ⅰ２.現代詩を群読するⅡ　「二十億光年の孤独」を群読 １３.日本の戯曲　日本の現代演劇史の中から １４.日本の戯曲　現代演劇の領域と実践 １５.前期のまとめと発展
授業外における学習（準備学習の内容）	特に「ロミオとジュリエット」「かもめ」については一読しておいてください。その他のテキストについては随時配布します。
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常点７０％　欠席の場合は減点　参加意欲３０％
教科書	新訳　ロミオとジュリエット　シェイクスピア　河合祥一郎訳角川文庫　ISBN978-4-04-210615-9 かもめ・ワーニャ伯父さん　チェーホフ　神西清訳新潮文庫　ISBN978-4-10-206502-0
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIB						
担当教員	岩崎　正裕						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	文芸作品の音読研究
授業の概要	日本の現代戯曲をテキストにリーディングを行います。リーディングとは、複数の相手とコミュニケーションをとりながら台詞を声に出して表現する行為です。何度も反復しながら作品をどのように立体化するかを模索します。
到達目標	台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。
授業計画	１.リーディング候補作の提案 ２.リーディング候補作の選定 ３.登場人物の関係性と背景（実践） ４.立って読む、座って読む（立ち座りの実践） ５.行動を起こす（音読と行為） ６.相手との距離（近づく離れる） ７.空間と身体（有効なポジションとは） ８.感情の開放と抑制（生きた役を作る） ９.場面を創造する（作品の可視化） １０.戯曲に頼らずに演技する（台詞に戻るための即興練習） Ｉ１.言葉と向き合う（即興から戯曲へ　新たなる発見） Ｉ２.関係の構築Ｉ（呼吸と距離の点検） １３.関係の構築Ⅱ（呼吸と距離の点検　その発展） １４.リーディング発表（２班体制で発表） １５.後期のまとめ（発表の合評会）
授業外における学習（準備学習の内容）	台詞を暗誦することが目的ではありませんが、日々の間隙に作品を読むことが大切です。
授業方法	実技実践を中心とします。
評価基準と評価方法	平常点７０％　欠席の場合は減点　参加意欲３０％
教科書	必要に応じて配布します。
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIIA						
担当教員	稲垣　萌子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	同じものをみても、人はそれぞれ異なるものを頭の中に思い描きます 日常の色や形を捉え直すことで、自分自身による新しい色や形を表現しましょう
授業の概要	生活の中にある事物の色や形を観察し、認識の仕方に広がりをもたせる。作品を制作する中で、色彩や形態の構成について学ぶ。
到達目標	課題の制作を通して、日常にある美しい色や形に対して鋭敏に反応する。表現をする中で自分自身の視点を自覚することができる。
授業計画	第1回　　イントロダクション 第2回　　-色の引き出し- 第3回　　色の収集 第4回　　-生きている色に触れる- 第5回　　色の響き合い 第6回　　-色の表現- 第7回　　オリジナルの色紙を作る 第8回　　-想像を形にする- 第9回　　季節の花 第10回　作品鑑賞 第11回　　デペインズマン〜構成について〜 第12回　-輪郭って何だろう- 第13回　形の収集 第14回　色と形のコラージュ 第15回　合評・まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の講義で必要な材料を集めること。また、授業で興味を持った事や気がついた事について記述しておくこと
授業方法	講義と実技
評価基準と評価方法	平常店30%、提出物40%、レポート30%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIIB						
担当教員	徳永　隆之						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	美術としての写真
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察することに重点を置きます。授業ではピンホールカメラを製作した後に撮影をおこない、写真の原理を理解します。その後、デジタルカメラを使用して撮影技術を学びます。また、普段触る機会が少ない大型カメラでの撮影も体験し、写真の原理に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。
到達目標	1.カメラの操作方法を学ぶ。 2.制作する体験を通して、美術作品をより深く理解する。
授業計画	第 1回　授業ガイダンス 第 2回　ピンホールカメラ製作 第 3回　撮影実習①　（ピンホールカメラを使用して撮影をおこなう） 第 4回　撮影の基礎知識について学ぶ 第 5回　撮影実習②　（人物撮影） 第 6回　画像調整ソフトの使用説明 第 7回　blogの作成及びwab上へ写真の掲載 第 8回　大型カメラ及びデジタル一眼レフカメラの使用説明 第 9回　撮影実習③　（大型カメラ/ビュータイプを使用して撮影をおこなう） 第10回　撮影実習④　（大型カメラ/フィールトタイプを使用して撮影をおこなう） 第11回　撮影実習⑤　（デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう） 第12回　作品集鑑賞①（興味がある作家を探す） 第13回　作品集鑑賞②（レポートに関する資料を探す） 第14回　撮影実習⑧　（コンストラクティッドフォトについて考える） 第15回　画像編集・レポート及び作品提出
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外で各自被写体を探し撮影します。また、写真提出はblogでおこないます。
授業方法	実習及び演習
評価基準と評価方法	「課題 40%、平常点 60%」欠席した場合は大幅に減点しますので注意してください。
教科書	必用な際にプリントを配布します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIVA						
担当教員	上野　静江						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う
授業の概要	音楽とより深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得るだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を体験しましょう。
到達目標	鍵盤楽器（チェンバロ）の演奏体験を通して名曲に触れ、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を学びます。学期末には学生主体による発表会を予定しています。
授業計画	第１回　キャンパス内の鍵盤楽器見学 ＊初回授業では、キャンパス内にあるパイプオルガン・ポジティフオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。 第２回　チェンバロについての基礎知識 ＊松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。 バロック期の代表的なチェンバロのための作品を鑑賞する。 第３回　チェンバロを弾くための基本（１）タッチ 第４回　チェンバロを弾くための基本（２）アーティキュレーション ＊チェンバロの「鍵盤操作で弦をツメではじく」、という独特の機構を理解し、 実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第５回　「チェンバロができるまで」ＤＶＤ鑑賞 ＊日本のチェンバロビルダーが製作したＤＶＤを鑑賞しながら、チェンバロの製造工程を知り、国による様式や音色の特徴を知る。 第６回　バロックの小曲を弾いてみよう（１）ドイツ 第７回　バロックの小曲を弾いてみよう（２）イタリア 第８回　バロックの小曲を弾いてみよう（３）フランス ＊バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際にチェンバロを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第９回　アンサンブルをしてみよう（１）通奏低音とは？ 第１０回　アンサンブルをしてみよう（２）和声付け 第１１回　アンサンブルをしてみよう（３）旋律楽器と合わせてみる ＊チェンバロでできるごく簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。 第１２回　発表会の準備（１）ソロ 第１３回　発表会の準備（２）アンサンブル 第１４回　発表会の準備（３）リハーサル ＊各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。 また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲者や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。 第１５回　前期クラス内発表会 ＊各自が前期中に取り組んだ曲の中で、チェンバロのソロ曲を１曲と、アンサンブル曲１曲を選び、演奏する。 人前で演奏することを経験し、また人の演奏を聴くことで、客観的に聴く耳、演奏を批評することを学ぶ。
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。
授業方法	講義・実習・発表

評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIVB						
担当教員	上野　静江						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。
到達目標	鍵盤楽器(パイプオルガン）の演奏体験を通して名曲に触れ、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を学びます。学期末には学生主体による発表会を予定しています。
授業計画	第１回　パイプオルガンについて基礎知識 ＊オルガンについて、代表的なオルガン曲のデモンストレーションを聴きながら、いろいろな音色を体験する。また実際にオルガン内部を見学し、パイプオルガンの基本的な構造や仕組み、またいろいろなパイプの種類の詳細を知る。 第２回　パイプオルガンを弾くための基本（１）身体の使い方 第３回　パイプオルガンを弾くための基本（２）笛を鳴らす 第４回　パイプオルガンを弾くための基本（３）タッチとアーティキュレーション 第５回　パイプオルガンを弾くための基本（４）息とフレージング ＊パイプオルガンの「鍵盤操作でパイプに風を送る」という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第６回　「パイプオルガン誕生」ＤＶＤ鑑賞 ＊一台のオルガンがどのようにして制作されるのか、ドキュメントフィルムから学ぶ。 第７回　いろいろな曲を弾いてみよう（１）クリスマスの讃美歌 第８回　いろいろな曲を弾いてみよう（２）オーケストラおよび合唱編曲 第９回　いろいろな曲を弾いてみよう（３）J.S.バッハ 第１０回　いろいろな曲を弾いてみよう（４）J.S.バッハとその家族 ＊よく知られた作品の中から、各人の進度に合わせて個別に課題（楽曲）を決め、実際にパイプオルガンを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第１１回　発表会の準備（１）練習用オルガンでの取り組み 第１２回　発表会の準備（２）練習用オルガンでの仕上げ 第１３回　発表会の準備（３）大オルガンでの取り組み 第１４回　発表会の準備（４）大オルガンでの仕上げ ＊各自が後期中に取り組んだ曲の中で１曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。 またただ弾くだけではなく、その楽曲に関しての情報を可能な限り集め、クラスで紹介する。 発表した内容を簡潔にまとめ、発表会の折にはプログラムノートとする。 第１５回　クラス内発表会と講評
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。
授業方法	講義・実習・発表
評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVA						
担当教員	嶋村　のぞみ						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「歌曲」を学ぶ
授業の概要	クラシック音楽における歌曲、声楽曲、各国の伝承歌についての概説や鑑賞、また実際に曲を歌うことにより、その曲の時代、国、作曲家など背景や特色を知り、時代を超えて再現され続けてきた歌曲作品に深くふれてみます。 実技演習では、無理のない正しい発声、日本語を美しく歌う、外国語の歌の発音の仕方、などが身につけられます。
到達目標	「歌う」ということは、人のいとなみにおいて、ごく身近な楽しみです。歌い方の基本を学んだり、芸術歌曲の古い作品にふれることで、歌についての知見を広め、人の声の持つ可能性の発見や歌うことへのより大きな楽しみへとつなげましょう。
授業計画	第１回　オリエンテーション　歌曲とは　声楽とは　発声、歌唱のはじめ 第２回　イタリアの歌曲とオペラ①オペラ誕生～古典派時代のオペラ　イタリア歌曲で歌唱発語の基礎を学ぼう 第３回　ドイツ・リート　歌曲王シューベルト～詩と物語と音楽との結びつき　歌曲「野ばら」を歌う 第４回　日本の歌曲①　北原白秋の詩による山田耕筰の歌曲　日本語のことばを美しく歌おう 第５回　日本の歌曲②　日本の唱歌になった西洋の愛唱歌　日本語訳詞の西洋愛唱歌を歌う 第６回　英語の歌曲①　イギリスの伝承歌とアメリカでの歌曲の発展　英語の歌の発音 第７回　第６回までのまとめ 第８回　日本の歌曲③　日本の民謡・古謡　　日本の音階 第９回　イタリアの歌曲とオペラ②ロマン派以降のオペラ　カンツォーネ　有名なオペラアリアを聴いてみよう 第１０回　フランスの歌曲　フランスの音楽とシャンソン 第１１回　世界の愛唱歌と民族音楽 第１２回　日本の歌曲④　日本の叙情歌　そして現在へ 第１３回　英語の歌曲②　オペラからミュージカルへ　映画、ミュージカルの名曲 第１４回　歌唱演習のまとめ 第１５回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	予習：毎回の授業で次回授業のテーマについて調べておくべきことと、演習する曲を指示します。 　　曲の楽譜をみて、歌詞を必ず読んでおくこと。 復習：演習した呼吸法、発声法の復習、また曲を歌ったり聴いたりして復習し、またその曲に関連する他の曲も調べたり鑑賞したりしてみてください。
授業方法	講義と演習 歌唱の演習は、毎回、前回の続きから学んでいける形で継続して呼吸と発声の実技もともに行います。 講義のテーマと歌唱実技の曲の内容が異なる回もあります。
評価基準と評価方法	「平常点」５０％　「レポート」３０％　「試験」２０％
教科書	「女子音楽　カンターレ」音楽之友社　ISBN978-4-276-82608-3
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVB						
担当教員	岡部　政美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	音・音楽との触れ合い
授業の概要	私たちは様々な音・音楽に囲まれて生活しています。授業ではそういった日常で意識する、しないに関わらないあらゆる音・音楽を取り上げ、サウンドスケープという音の捉え方、近年注目されつつある音楽療法での音とのかかわり方を中心に、多方面から音・音楽にアプローチします。授業形式は、視聴覚教材を用いながら講義しつつディスカッションを行います。キャンパス内の音を探して歩くリスニング・ウォークも行います。
到達目標	１．音・音楽について柔軟な考え方を持つことが出来るようになる。 ２．サウンドスケープという音の捉え方を知る。 ３．音・音楽をきっかけに自分自身、他者を知る。 ４．音・音楽が人間の心理状態に与える力を把握し、適切にかかわれるようになる。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　音・音楽に付いて考える 第3回　サウンドスケープ１　基本概念 第4回　サウンドスケープ２　記憶・イメージの音 第5回　サウンドスケープ３　リスニング・ウォーク 第6回　日本人と音 第7回　日本の音風景 第8回　世界の音風景 第9回　音と映像 第10回　俳句の音・詩歌療法 第12回　音楽療法１ 第13回　音楽療法２ 第14回　音楽療法３ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習:教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習:毎回、さまざまな音・音楽を取り上げ様々な聴き方を紹介しますので、普段の生活で今までと違った感性で音・音楽を捉えるよう意識してください。それに関連した課題を数回出します。別にレポート課題も出します。また毎回一人に音・音楽についての発表をしてもらいます。
授業方法	講義、ディスカッション、視聴覚教材の視聴
評価基準と評価方法	学習態度・授業への参加度・提出物　60% 試験　40%
教科書	『音の生態学　音と人間のかかわり』若宮真一郎著、コロナ社,ISBN4-339-07694-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIA						
担当教員	藤井　推						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践
授業の概要	「広告はラブレターである」「広告はニュースである」…等広告は様々な側面をもって語られますが、消費者の心の動き洞察しいかにして購買に結び付けるかを突き詰めて考えていく作業です。 本授業では、広告のキーであるコピーについての考察を様々な角度から行っていきます。そのために、最近成功したキャンペーンや話題になったＣＭから世界のＣＭまでを取り上げながらコピーライティングの基本を学んでいきます。
到達目標	消費者の心理を洞察し、どうしたら好きになってもらえるか、どうしたら買ってもらえるか自分ならではの仮説をたて、それをわかりやすく説明することを体験し、一人一人のコミュニケーション能力を向上させます。 このチカラは広告業界だけではなく、社会生活全般で役立つものです。また、優れた広告を多く鑑賞することによって、広告の自由な発想や楽しさも理解できます。
授業計画	第１回　広告とは（１）日本の広告事情 第２回　広告とは（２）コピーの役割 第３回　ＡＣジャパンのキャンペーンの研究と課題 第４回　クリエーティブワークショップその１(公共広告) 第５回　企業広告の研究と課題 第６回　クリエーティブワークショップその２（企業広告） 第７回　ラジオＣＭの研究と課題 第８回　クリエーティブワークショップその３（ラジオＣＭ） 第９回　新聞広告の研究と課題 第１０回　クリエーティブワークショップその４（新聞広告） 第１１回　テレビＣＭの研究と課題 第１２回　クリエーティブワークショップその５（テレビＣＭ） 第１３回　広告規制のはなし【ゲストスピーカー　ＪＡＲＯ】 第１４回　世界の広告（カンヌクリエィティブフェスティバルより） 第１５回　ワークショップまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習　テレビＣＭ，新聞広告、電車内吊りポスター等身近にある広告を日々意識してチェックしてください。 授業後学習　ワークショップで課題制作が完成しなかった場合、次回までに完成させてください。
授業方法	講義と実習（ワークショップ）
評価基準と評価方法	平常点５０％・課題制作と発表５０％
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 授業に当たって、ＡＣＣ（ＣＭフェスティバル）入賞作やＡＣジャパンキャンペーン集等を鑑賞します。
参考書	授業の中で適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIB						
担当教員	佐藤　千晴						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	ジャーナリズムの文章に親しむ
授業の概要	ジャーナリズムやノンフィクションに親しむために、新書７冊を読破します。授業では計３冊を取り上げてゼミ形式で精読し、授業外でも学生それぞれが自由に選んだ最低４冊を読み、レポートを書くことを課題とします。書くことも重視し、上記レポートに加えて授業終了時に毎回「きょう学んだこと」の提出を必須とします。
到達目標	・ジャーナリズムやノンフィクションの文章を読み解けるようになる ・本を読むこと、文章を書くことを生活習慣として獲得する
授業計画	第１回　ガイダンス／講義「新書」とは何か／教科書「文章のみがき方」の概説 第２回　教科書「文章のみがき方」を読む①著者を知る／授業外課題図書①を決める 第３回　教科書「文章のみがき方」を読む②要約してみる 第４回　教科書「文章のみがき方」を読む③参考文献へ広げる 第５回　教科書「文章のみがき方」を読む④収穫を書き出す／授業外課題図書①のレポート提出 第６回　共通図書Aを読む①構成をつかむ／レポート振り返り／授業外課題図書②を決める 第７回　共通図書Aを読む②ポイントをつかむ 第８回　共通図書Aを読む③社会との関連を探す 第９回　共通図書Aを読む④収穫を発表／授業外課題図書②のレポート提出 第10回　共通図書Bを読む①読み方のプランを立てる／レポート振り返り／授業外課題図書③を決める 第11回　共通図書Bを読む②「読み方」を交換する 第12回　共通図書Bを読む③関連図書と比べる 第13回　共通図書Bを読む④社会との関連を語り合う／授業外課題図書③のレポート提出／授業外課題図書④を決める 第14回　共通図書Bを読む⑤収穫を発表する／授業外課題図書④のレポート提出 第15回　授業のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外で10月〜１月の４カ月間に新書計４冊を読み、１冊ごとにレポートを提出します。何を読むかは学生それぞれが選び、教員と相談の上で決定します。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業への参加度・授業時の課題提出６０%、課外課題のレポート提出（計４回）４０%、
教科書	辰濃和男「文章のみがき方」（岩波新書）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎A						
担当教員	打田　素之						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文学と芸術の研究方法を学ぶ
授業の概要	言語芸術（小説・戯曲）、映像芸術（映画・マンガ・アニメ）の研究方法を紹介し、文芸作品を研究することが、何の役に立つかを説明する。
到達目標	文芸作品の分析方法を理解し、その適用を想定できるようになる。
授業計画	１．講義の趣旨と成績評価の説明 ２．文芸のジャンル ３．歴史の概観と主な作品 ４．文学（１）作家主義 ５．　　（２）テーマ批評 ６．　　（３）構造分析 ７．映画（１）時代と社会 ８．　　（２）国と文化 ９．　　（３）思想と宗教 10．マンガ・アニメ（１）歴史 11．　　（２）ジェンダー 12．　　（３）精神分析 13．音楽：Ｊポップ 14．文芸研究とビジネス 15．まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	ＴＶも含めて、あらゆる虚構作品＝フィクション（マンガ、アニメ、小説）に触れる。 音楽は、Ｊ-ＰＯＰはもちろんのこと、演歌からクラッシックに至るまで、ジャンルを問わず聞くように努める。 美術展には常に気を配り、有名展には必ず足を運ぶ。
授業方法	講義を基本とするが、常に質疑応答を試みる。
評価基準と評価方法	平常点（５６％）＋テスト（４４％）。3分の1以上の欠席で失格とする。
教科書	プリント配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎B						
担当教員	柿沼　伸明						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	空間芸術、時間芸術、言語芸術の歴史的な生成発展の総合理解
授業の概要	人間がもつ視覚と聴覚は、空間芸術（絵画や建築や彫刻など）と時間芸術（音楽など）を生み出した。文明が出現すると、空間芸術と時間芸術と平行して、言語芸術が発展していく。特に注目に値するのが、美術・文学分野において２０世紀の西洋に起きた伝統的な「フォルム」（美的形式）の破壊という現象である。西洋近世（中世－ルネサンス期－１８世紀～１９世紀前半）、芸術のフォルムは次第に固定化されていき、１９世紀後半から芸術上の約束事を客観視していこうという運動が生じた。美術だと見たままに描くという写実性の原則が放棄され、文学だと詩や小説の約束事の研究が発展した。特に、２０世紀の物語論（ナラトロジー）研究の推進は、特筆すべき出来事である。音楽の分野でも、１９世紀にゲルマン民族の神話と伝説を楽劇化したワーグナーという巨人が出現した。後期では、主として、近代の芸術の流れを概説する。
到達目標	美術・音楽・文学という美的形式の歴史的な変遷を説明できるようになる。 今後の総合武芸学科での学びの基礎となる文芸学とは何かを理解する。
授業計画	（１）　言語に由来する詩形式の相違＜１＞　各言語のアクセント体系の違い、音節に基づく西洋古典詩の原理 （２）　言語に由来する詩形式の相違＜２＞　近代西欧語（独仏露語）の作詩法、脚韻の法則 （３）　ウィーン古典派＜１＞　ハイドン （４）　ウィーン古典派＜２＞　モーツァルト （５）　ウィーン古典派＜３＞　ベートヴェン （６）　物語論（ナラトロジー）入門（物語とは何か？） （７）　サロンと印象派 （８）　２０世紀美術史（セザンヌの多視点描画からシュール・レアリスムまで） （９）　昔話の構造分析（口承物語のストーリー展開の法則性） （１０）ワーグナーの楽劇＜１＞　《ローエングリーン》から見た楽劇の革新性 （１１）ワーグナーの楽劇＜２＞　《ニーベルングの指輪》解説 （１２）身体芸術としてのバレエ （１３）視覚芸術としての映画（映画の文法と可能性） （１４）シクロフスキーの「異化」の理論 （１５）後期授業のまとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	インターネットでもよいから、次回の授業テーマについて事前に調べておくこと。 講義内容を理解した後、授業のレジュメを熟読し、参考文献に基づいて関連研究書を読んでみること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	出席１０回以上で、期末試験の受験資格を得る（欠席５回以上は自動的に落第）。 毎授業時、レスポンスシート（授業理解度を測る小テスト）の記述を課す。理解度を３段階で評価し、次回授業時にレスポンスシートを返却する。 期末テストは、講義で扱った複数のトピック（事前に指定）から２つを選択し、それについて述べよとする。
教科書	授業内容はプリント配布とパワーポイントで解説する。
参考書	毎回の授業で参考書を指示する。

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現／文章表現B						
担当教員	西川　純司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文章表現の基礎を学ぶ。
授業の概要	基本的な文章表現を身につけるとともに、総合文芸学科として必要なアカデミックな文章表現能力を実践的に学ぶ。
到達目標	文章表現の基礎を習得し、表現することの楽しみを味わいながら文章表現能力を高める。
授業計画	１．　ガイダンス ２．　文章表現の基礎①　読点の役割とその意図 ３．　文章表現の基礎②　語順の選択とその意図 ４．　要約文作成（論説文）①　作成にあたって ５．　要約文作成（論説文）②　要約の取り組み ６．　物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）①　作成にあたって ７．　物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）②　物語の要約 ８．　物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）③　振り返り ９．　演習①：レポートの準備　題材について １０．演習②：レポートの準備　情報収集 １１．演習③：レポートの準備　情報の整理 １２．演習④：レポートの作成　内容の構成 １３．演習⑤：レポートの作成　作成 １４．演習⑥：レポートの完成　振り返り １５．まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習 レポートの作成
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	レポート（４０％）、平常点（６０％）
教科書	必要に応じて資料やプリント配布する。
参考書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ｉ　表現・表記編』明治書院、2009 西田みどり『文章表現のためのワークブック』知玄舎、2009

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現／文章表現B						
担当教員	枡井　智英						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	文章表現の基礎を学ぶ。
授業の概要	基本的な文章表現を身につけるとともに、総合文芸学科として必要なアカデミックな文章表現能力を実践的に学ぶ。
到達目標	文章表現の基礎を習得し、表現することの楽しみを味わいながら文章表現能力を高める。
授業計画	１．　ガイダンス ２．　文章表現の基礎① 読点の役割とその意図 ３．　文章表現の基礎②　語順の選択とその意図 ４．　要約文作成（論説文）①　作成にあたって ５．　要約文作成（論説文）②　要約の取り組み ６．　物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）①　作成にあたって ７．　物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）②　要約の取り組み ８．　物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）③　振り返り ９．　演習①：レポートの準備　題材について １０．演習②：レポートの準備　情報収集 １１．演習③：レポートの準備　情報の整理 １２．演習④：レポートの作成　内容の構成 １３．演習⑤：レポートの作成　作成 １４．演習⑥：レポートの完成　振り返り １５．まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習　レポートの作成
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	レポート（４０％）、平常点（６０％）
教科書	必要に応じて資料やプリント配布する。
参考書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ｉ　表現・表記編』明治書院、2009 西田みどり『文章表現のためのワークブック』知玄舎、2009

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	佐藤　千晴						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	・新聞製作を通して表現する力、調べる力、情報を判断する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける
授業の概要	新聞の文章とレイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と実習（デスクトッププブリッシング（DTP）ソフト「パーソナル編集長」を使った新聞製作）でその知恵を具体的に学びます。 新聞、インターネットメディアなどを読み解く力、文章を書く力、新聞という形を活用して記事を組み合わせ、表現する力を育てます。 新聞やテレビのニュースに接触する習慣の獲得も目指します。
到達目標	・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現する
授業計画	第１回　オリエンテーション　新聞・メディアの活用法／シラバス解説 第２回　新聞の読み方を学ぶ（１）新聞の構成 第３回　新聞の読み方を学ぶ（２）見出しとレイアウト 第４回　記事を書く準備　「５W１H」を意識する／実習・「パーソナル編集長」基本を体験する 第５回　実習・記事を書く（１）インタビュー記事①質問を決める／実習「パーソナル編集長（１）写真を取り込む 第６回　実習・記事を書く（２）インタビュー記事②インタビュー実施／実習「パーソナル編集長」（２）教材紙面の分解・再構成①（題字・見出し） 第７回　実習・記事を書く（３）インタビュー記事③仕上げ・提出／実習「パーソナル編集長」（３）教材紙面の分解・再構成②（箱組み） 第８回　実習・記事を書く（４）インタビュー記事のブラッシュアップ／実習「パーソナル編集長」実習（４）題字・見出しを作る 第９回　実習・記事を書く（５）資料からの記事作成①「５W１H」を構成に生かす／実習「パーソナル編集長」（５）様々な箱組み 第10回　実習・記事を書く（６）資料からの記事作成②提出／課題新聞A製作①企画 第11回　実習・記事を書く（７）ネットで集めた情報を記事にする①収集／課題新聞A製作②構成・レイアウト 第12回　実習・記事を書く（８）ネットで集めた情報を記事にする②執筆／課題新聞A製作③レイアウト提出 第13回　課題新聞A製作④仕上げ・点検 第14回　課題新聞A製作⑤→完成作品提出／前期のまとめ 第15回　実習・「パーソナル編集長」の使い方復習 第16回　実習・記事を書く（９）時事コラムに挑戦①テーマを決める／課題新聞B製作①素材選び 第17回　実習・記事を書く（10）時事コラムに挑戦②コラムを支えるデータ集め／課題新聞B製作②素材の記事・写真を整える／ニュース検索の方法を身につける 第18回　時事コラム提出・講評／課題新聞B製作③素材組み付け 第19回　時事コラム再提出／課題新聞B制作④校閲作業 第20回　課題新聞B制作⑤仕上げ・提出 第21回　課題新聞B振り返り／課題新聞Cガイダンス 第22回　課題新聞C製作①企画案を作る 第23回　課題新聞C製作②記事・写真の準備（１）構成を決める 第24回　課題新聞C製作③記事・写真の準備（２）素材を集める 第25回　課題新聞C製作④レイアウト開始 第26回　課題新聞C製作⑤レイアウト紙面提出 第27回　課題新聞C製作⑥レイアウト仕上げと校閲 第28回　課題新聞C製作⑥仕上げ 第29回　課題新聞C製作⑦完成紙面提出 第30回　課題新聞C振り返り／１年間のまとめ 課題新聞A＝資料から作成した記事またはインタビュー記事と、好きなテーマでインターネットから集めた記事２本を組み合わせた新聞 課題新聞B＝４月〜９月のニュースから選んだ記事と、自分で書いた「時事コラム」を組み合わせて新聞をつくる 課題新聞C＝「自分史新聞」または自由題。すべての記事を自分で書き、写真もオリジナルを使う
授業外における学習（準備学習の内容）	毎月、ニュースを振り返る宿題を出します。また、随時、記事やコラムを書く課題も出します。目安とする学習時間は週に２時間ほどです。授業で学生が発表し、話し合います。質問は授業またはメールで受け付けます。 chiharu.sato1130@gmail.com
授業方法	演習

評価基準と評価方法	課題新聞A～Cの評価60%、毎月の宿題提出への評価30%、授業への参加度10%
教科書	パソコン編集入門（「パーソナル編集長バージョン11」対応版）＝日本機関紙協会大阪府本部・著、機関紙出版・刊
参考書	

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門A						
担当教員	西川　純司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	メディア・コミュニケーション入門
授業の概要	本講義では、コミュニケーション論の基本を学ぶことを目的とします。個人間のコミュニケーションから、コミュニケーションの伝達様相と関係性、その影響力、さらには社会の水準におけるコミュニケーションについてみていきます。すなわち、個人というミクロレベルから社会というマクロレベルへと話を進めていくことになります。こうした知識は、今後メディアや広告・広報などを学んでいく上で基礎をなすものとして位置づけられます。
到達目標	・コミュニケーション論についての基本的な知識を習得できます。 ・メディア・コミュニケーションを分析するためのさまざまな視角を知ることができます。
授業計画	１　イントロダクション ２　コミュニケーションとは何か ３　ことばとコミュニケーション ４　文字のコミュニケーション ５　映像のコミュニケーション ６　社会関係とコミュニケーション ７　説得 ８　うわさ ９　流行と普及 １０　マーケティング・コミュニケーション １１　コーポレート・コミュニケーション １２　情報社会とコミュニケーション １３　災害とコミュニケーション １４　レポート検討会 １５　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。
授業方法	講義を中心とします。
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業での発言や参加度）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	辻大介・是永論・関谷直也、『コミュニケーション論をつかむ』、有斐閣

－　　－　　－

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門B						
担当教員	西川　純司						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	メディアと自分史
授業の概要	本講義では、自分史を作成しながら、私たちの考え方や関係性がメディア環境と深く結びついていることを理解してもらうことを目的としています。みなさんが生まれ成長してきた時代は、メディア環境が大きく変化した時期でもありました。わたしたちはどのようにしてテレビやインターネットなどのメディアを利用してきたのか、それは親や祖父母が経験してきたこととどのように違っているのでしょうか。これからの時代のメディアを考えるためにも、過去および現在のメディアの利用実態をひも解いていきます。そうして、マクロな社会の流れとミクロな自分の生活を結びつける想像力を身につけることが、本講義のねらいです。
到達目標	・メディアの利用実態やその影響についての基本的な知識を習得できます。 ・自分史を作成していく過程で、情報の集め方やまとめ方、人に話を聞くやり方、さらには他の学生との間で意見を交換し議論する方法が身につきます。
授業計画	１　イントロダクション ２　日本人はメディアをどのように受け入れてきたか ３　メディアの利用実態の変化（１）：テレビ ４　メディアの利用実態の変化（２）：新聞 ５　メディアの利用実態の変化（３）：書籍・雑誌 ６　メディアの利用実態の変化（４）：インターネット ７　メディアの利用実態の変化（５）：電話 ８　メディア環境の変化を考える（１）：メディアと心理 ９　メディア環境の変化を考える（２）：ネット世代の心理 １０　自分史をつくる（１）：自分史制作の概要と説明 １１　自分史をつくる（２）：「わたしが生まれたとき」 １２　自分史をつくる（３）：「最も印象に残ったエピソード」 １３　自分史をつくる（４）：「メディアの昔と今」 １４　制作課題発表会 １５　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 また、自分のまわりにあるメディアについて、いつ、どこで、どのように利用しているのか意識しておいてもらいたいと思います。
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。また、簡単な制作課題にも取り組んでもらいます。
評価基準と評価方法	制作課題70%、平常点（授業ての発言や貢献度）30%、て評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	橋本良明、『メディアと日本人』、岩波新書